小牧駅前広場等整備基本構想

平成 30 年３月

小　　牧　　市

目　次

Ⅰ　小牧駅前広場等整備基本構想について 1
１．目的 1
２．各種計画における位置づけ 1

Ⅱ　小牧駅周辺の現状と課題 5
１．小牧駅周辺の現状 5
２．小牧駅周辺の課題 19

Ⅲ　小牧駅前広場等整備基本構想の基本方針 25
１．小牧駅前広場等整備基本構想の検討範囲 25
２．小牧駅周辺の位置づけ・現状・課題のまとめ 26
３．整備の基本方針 27
４．整備イメージ図 28
５．民間活力による道路空間、都市公園の活用事例 29
６．駅西駅前広場「にぎわい空間」のイメージスケッチ 30

Ⅳ　構想の実現に向けて 31

Ⅰ 小牧駅前広場等整備基本構想について

１．目的

これまで小牧市（以下、「本市」という。）では、中心市街地である小牧駅周辺の整備について、平成20年３月に小牧駅周辺整備計画策定協議会において策定された「小牧駅周辺整備計画」をたたき台としながら、市営小牧駅西駐車場として暫定利用しているＡ街区、小牧駅前広場などの整備の検討を進めてきた。

しかしながら、「小牧駅周辺整備計画」の策定から９年が経過し、現在の小牧駅周辺を取り巻く環境は、大きく変化している。

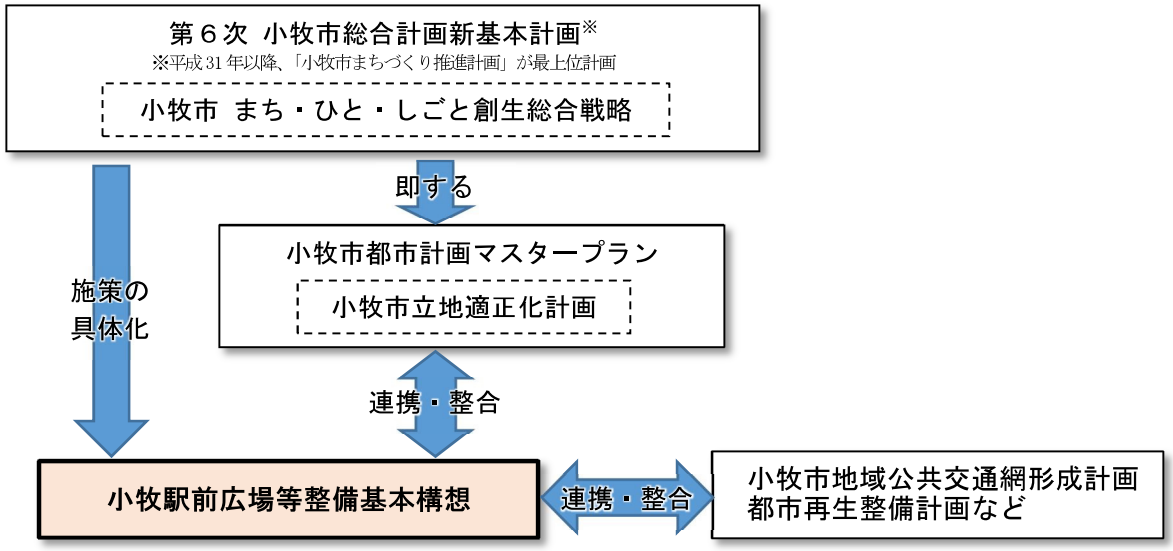
具体的には、平成26年11月に東春信用金庫がＡ街区北東部に移転オープンしたこと、平成27年８月に愛知県から新交通システム桃花台線（ピーチライナー）の全線撤去の方針が示されたこと、平成29年３月に都市全体の観点から、居住機能や医療、福祉、子育て支援、商業などの都市機能の立地、公共交通の充実等に関する包括的なマスタープランである小牧市立地適正化計画を策定し、とりわけ小牧駅を中心としたエリアについては、広域的な都市機能の誘導・集積を目指すとともに、利便性の高い公共交通ネットワーク構築を図る中心拠点に位置づけられたこと、また、平成29年６月には、市営小牧駅西駐車場及びにぎわい広場として暫定利用しているＡ街区南側の市有地に新小牧市立図書館を建設する方針や再開発ビル「ラピオ」の再構築として（仮称）こども未来館を整備する方針が決定された。

このため、小牧駅周辺の整備については、「小牧駅周辺整備計画」策定後の小牧駅周辺の環境変化を踏まえて、整備検討を行う範囲や整備に関する基本的な考え方などを整理し、小牧駅前広場等整備基本構想を策定することとする。

２．各種計画における位置づけ

本構想は、「第６次小牧市総合計画※」分野別計画編の都市基盤に係る基本施策（市街地整備）のうち、名鉄小牧駅周辺における公共交通利用者の利便性の向上並びに中心市街地の魅力の向上及びにぎわい創出を図る施策を具体化するものであるとともに、「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「小牧市都市計画マスタープラン」、「小牧市立地適正化計画」などの本市が策定した各種計画における小牧駅周辺の位置づけ・方針と整合を図るものとする。

（※平成31年以降は、「小牧市まちづくり推進計画」が市の最上位計画となる）

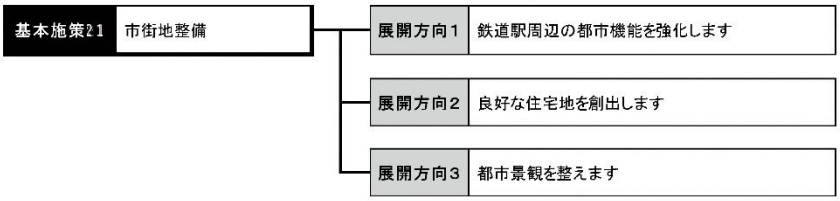


（１）第６次小牧市総合計画新基本計画

第６次小牧市総合計画新基本計画（平成26年３月策定）では、分野別計画編の都市基盤に係る基本施策（市街地整備）として、名鉄小牧駅周辺におけるまちの魅力向上、にぎわいの創出を目的とし、名鉄小牧駅周辺の整備が示されている。

◆基本施策の目的および体系

名鉄小牧線沿線を中心に、より多くの市民が便利で快適に暮らせる生活空間を確保するとともに、名鉄小牧駅周辺におけるまちの魅力を向上します。



◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	基準値	目指す方向性
小牧駅周辺が便利と思う市民の割合	32.3%	↗
名鉄小牧線沿線居住率	56.5%	↗
小牧市の景観について、好ましいと思う市民の割合	68.9%	↗

◆基本施策の展開方向１：鉄道駅周辺の都市機能を強化します

【目的】

○公共交通の結節点である鉄道駅周辺において、公共交通利用者の利便性を向上します。

○特に、名鉄小牧駅周辺においては、本市の中心市街地として魅力を高め、賑わいを創出します。

【手段】

①鉄道駅周辺において、駅前広場、道路などを整備します。

②Ａ街区※をはじめ名鉄小牧駅周辺の整備を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

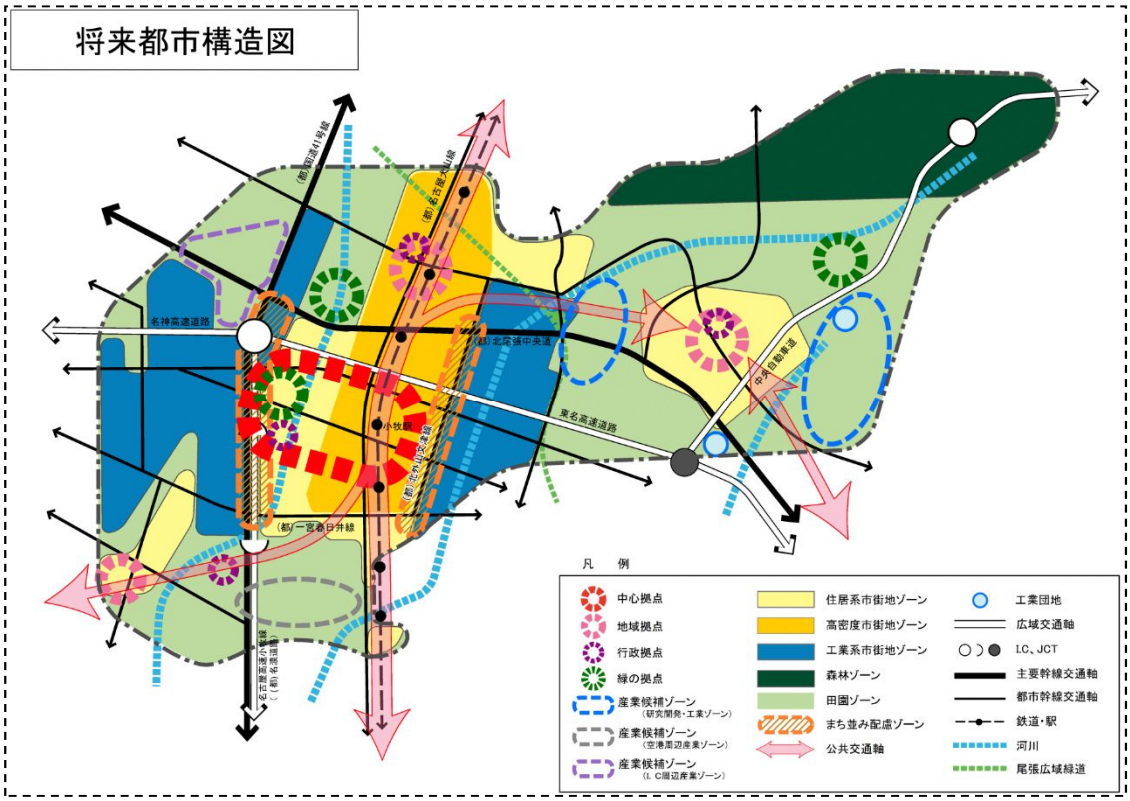
指標名	基準値	目指す方向性
名鉄小牧線の駅が利用しやすいと思う市民の割合	42.7%	↗
名鉄田県神社前・味岡・小牧・小牧口駅の年間乗降客数	7,259,994 人	↗

（２）小牧市都市計画マスタープラン

①全体構想での位置づけ

小牧市都市計画マスタープラン（平成29年３月策定）における全体構想では、小牧駅周辺から市役所・小牧山周辺の一帯を「中心拠点」と位置づけ、まちなか居住、商業・業務、文化、医療・福祉、行政等の機能を誘導し、広域的な都市機能が集積したにぎわいと活気に満ちた本市の顔にふさわしい中心拠点の形成を図るものとされている。

公共交通に関しては、公共交通の軸として重要な役割を担う名鉄小牧線を南北鉄道軸と位置づけ、小牧駅周辺の中心拠点と味岡駅周辺の地域拠点等の拠点間連携や、名古屋・犬山方向の都市間移動需要への対応を図るとともに、東西市街地の連携強化に資する東西公共交通（バス）軸の形成を図り、小牧駅周辺の中心拠点と桃花台センター地区及び藤島地区の地域拠点等の拠点間連携や、春日井・岩倉方向の都市間移動需要への対応を図るものとされている。



②地域別構想における方針

小牧駅周辺を内包する小牧地域においては、地域のまちづくり目標**「小牧の玄関にふさわしい魅力を備え、豊かで快適な暮らしのできるまち」**を目指し、小牧駅周辺に関する地域のまちづくり方針として、以下の方針を掲げている。

- 小牧駅周辺における商業・業務、生活サービス、文化等の多様な都市機能の導入促進
- にぎわい創出事業の実施等によるまちの活性化、商店街の再生
- 小牧駅周辺における中心市街地の景観の整備
- 小牧駅周辺の都市機能の向上
- 緑豊かで環境にやさしく、魅力的で活気とにぎわいに満ちた小牧駅周辺の形成
- 小牧駅周辺での徒歩や自転車で楽しめる環境づくり（歩車分離、歩行者・自転車ネットワークの整備等）

（３）小牧市立地適正化計画

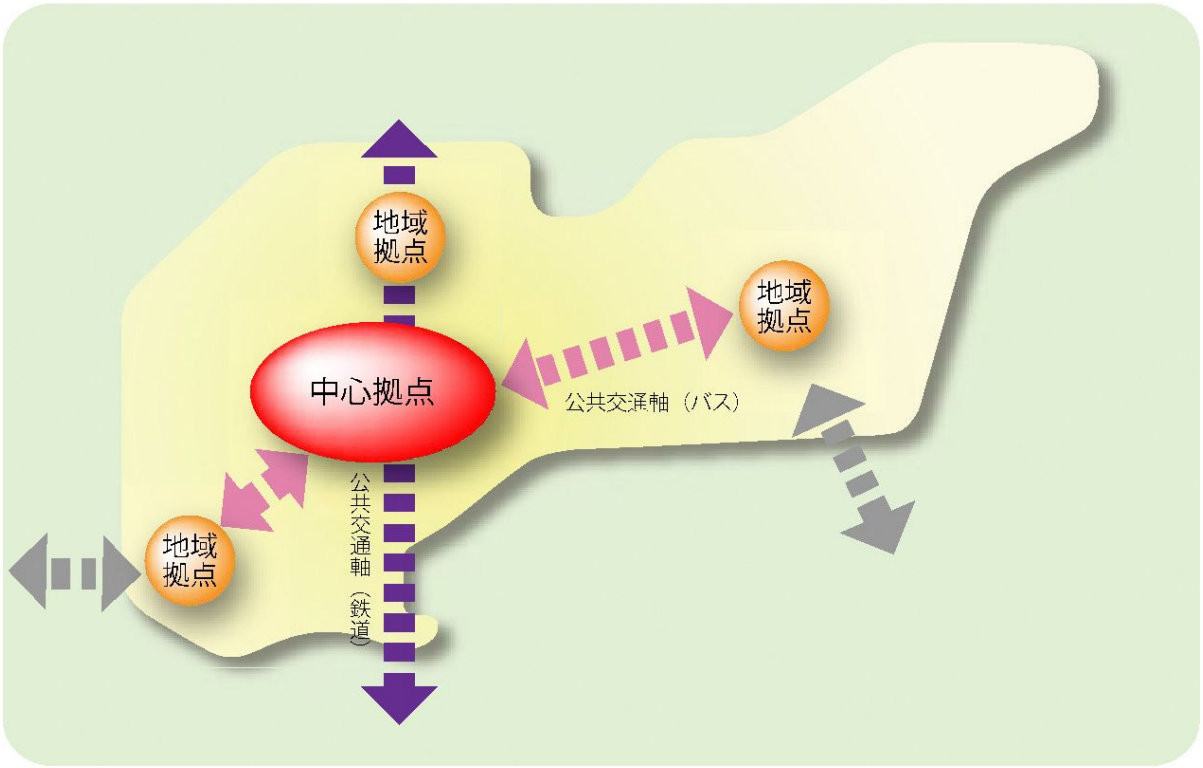
小牧市立地適正化計画（平成29年３月）では、小牧駅を中心としたエリアについては、広域的な都市機能の誘導・集積を目指すとともに、利便性の高い公共交通ネットワーク構築を図る「中心拠点」に位置づけられている。

①都市の骨格構造

拠点の配置として、小牧市都市計画マスタープランの将来都市構造で示している拠点を継承し、本市の中心部である小牧駅周辺に「中心拠点」を配置・形成するものとされている。

公共交通に関しては、都市の骨格として、本市の中心を縦断する名鉄小牧線など市民生活を営む上で利便性の高い公共交通路線を公共交通軸として設定し、中心拠点を中心に公共交通ネットワークを構築することで、中心拠点とその他の拠点間などの連携を強化するものとされている。

■都市の骨格構造（イメージ）



②課題解決のための施策・誘導方針

都市機能の誘導方針として、人口減少の中にあっても各種サービスの効率的な提供が図られるよう、「中心拠点」に市民全体の生活利便性の向上に寄与するような「広域的な都市機能」を誘導するとともに、「地域拠点」や「公共交通軸である鉄道駅周辺」などに「日常生活に必要な都市機能」を誘導するなど、地域特性に応じた機能を誘導・集積することが必要であるとされている。

また、都市機能の集積を図る施策として、交通結節点整備事業があり、公共交通の利便性向上に向けた小牧駅の整備が記載されている。

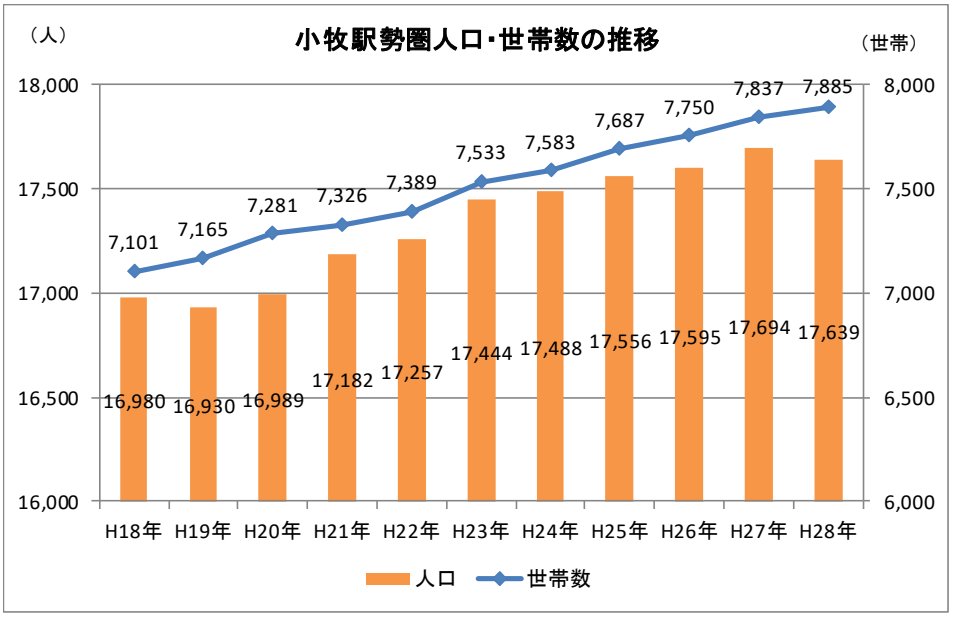
Ⅱ 小牧駅周辺の現状と課題

１．小牧駅周辺の現状

（１）経年変化の把握

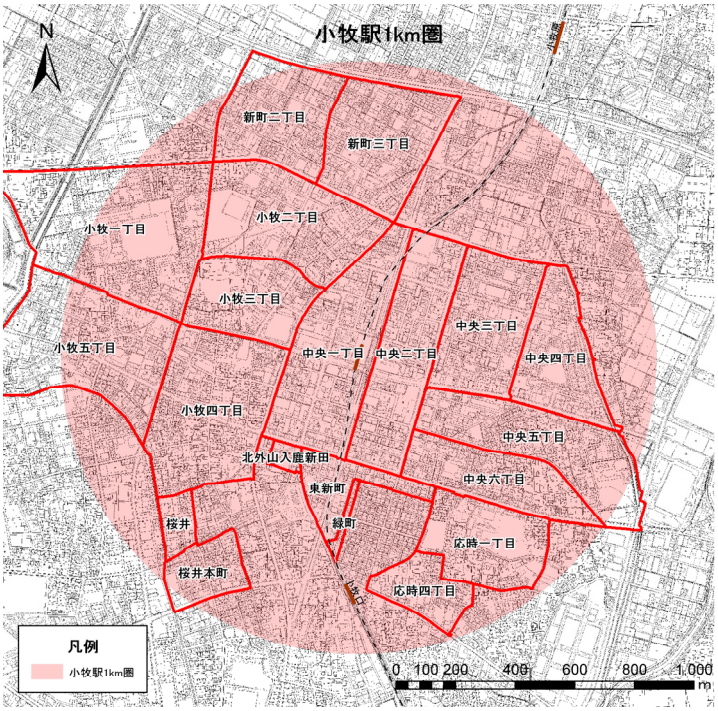
①小牧駅 駅勢圏人口・世帯数の推移

小牧駅より半径1km圏内の人口・世帯数※の推移をみると、人口・世帯数ともに増加傾向にあり、平成18年から平成28年にかけて、人口は659人、世帯数は784世帯増加している。平成27年から平成28年の1年間では、人口は55人減少、世帯数は48世帯増加している。

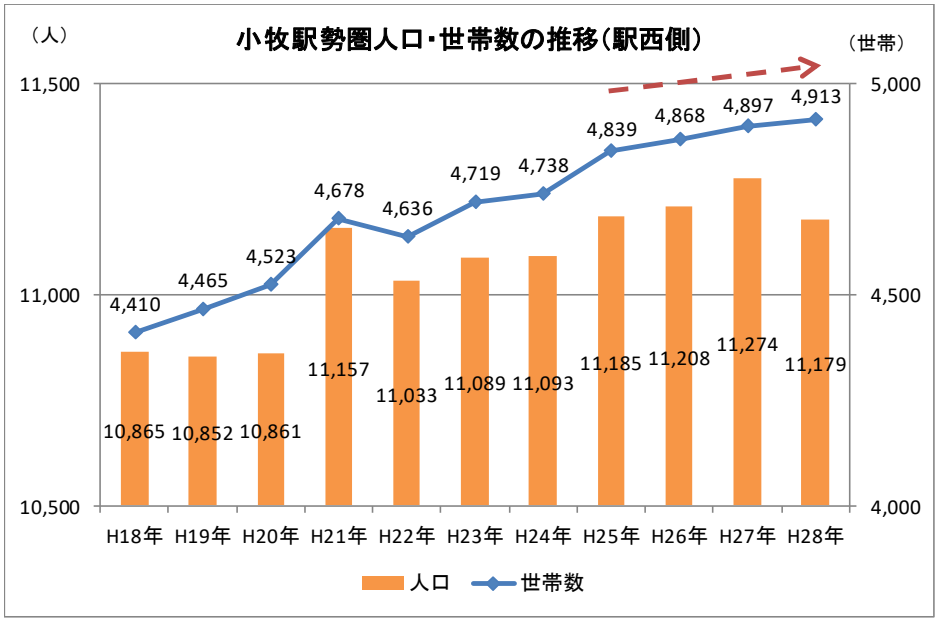


※住民基本台帳ベースの各年 10 月 1 日現在の町丁別人口・世帯数より、小牧駅から半径 1km の円に、町丁域の過半がかかる町丁（応時一・四丁目、桜井本町、北外山入鹿新田、東新町、緑町、新町二・三丁目、小牧一～五丁目、中央一～六丁目、桜井）の人口・世帯数の合計。

資料：小牧市統計年鑑

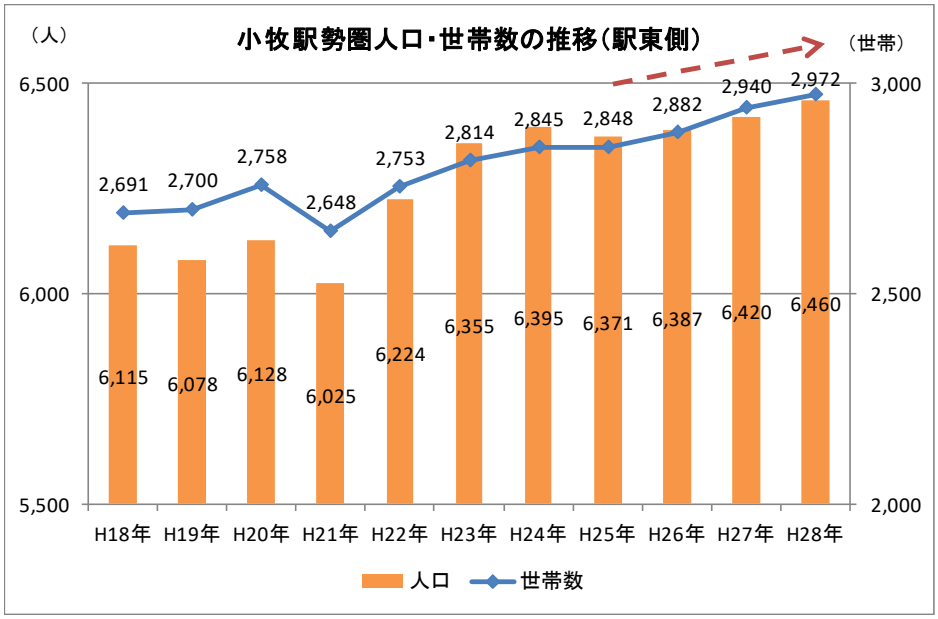


小牧駅より半径1km圏内の人口・世帯数の推移を駅西側、駅東側に分けてみると、駅西側については、平成18年から平成28年にかけて、人口は314人、世帯数は503世帯増加している。平成27年から平成28年の1年間では、人口は95人減少、世帯数は16世帯増加している。



※桜井本町、北外山入鹿新田、新町二・三丁目、小牧一～五丁目、中央一丁目、桜井の人口・世帯数の合計。

駅東側については、平成18年から平成28年にかけて、人口は345人、世帯数は281世帯増加している。平成27年から平成28年の1年間では、人口は40人、世帯数は32世帯増加している。

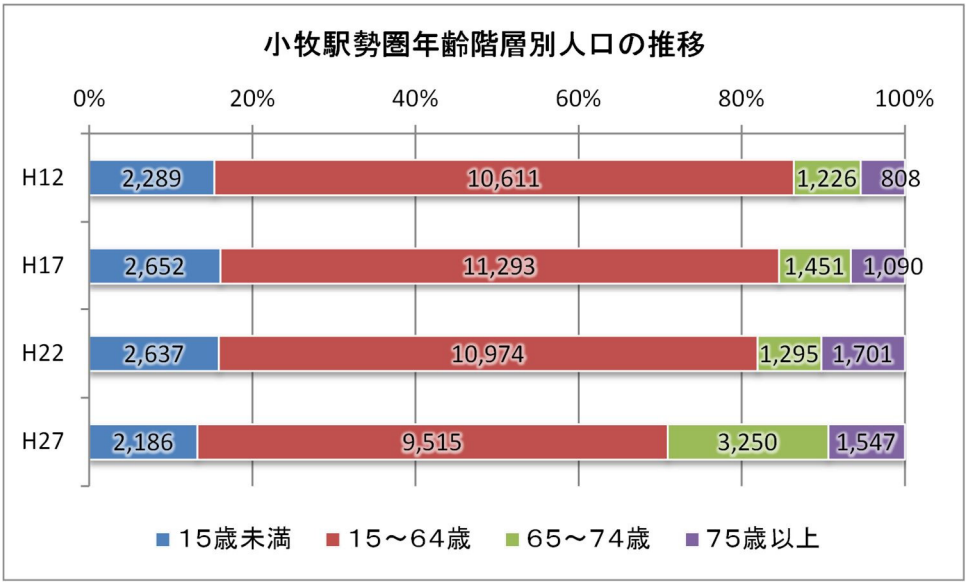


※応時一・四丁目、東新町、緑町、中央二～六丁目の人口・世帯数の合計。

資料：小牧市統計年鑑

②小牧駅 駅勢圏年齢階層別人口の推移

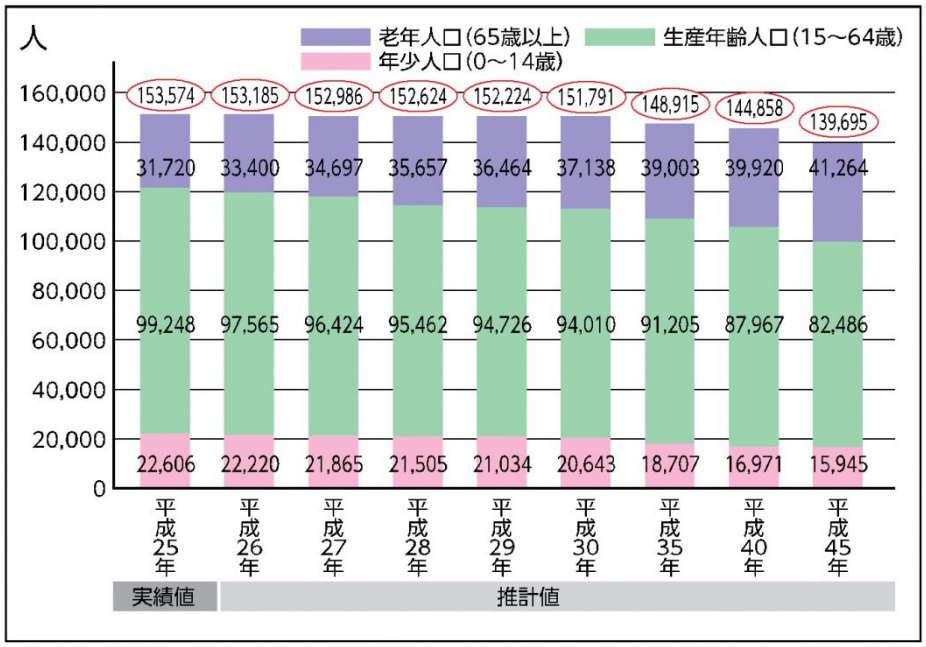
小牧駅より半径1km圏内の年齢階層別人口の推移をみると、特に65～74歳以上の増加が著しく、平成12年から平成27年にかけて２倍以上増加している。一方、15歳未満及び15～64歳の人口は、平成17年以降減少傾向にある。



資料：国勢調査小地域集計

③本市の将来人口の推移結果

本市全体の年齢階層別人口の将来推計をみると、平成25年から人口総数は減少を続け、平成45年までに約1万4千人減少すると予測されている。一方、老年人口（65歳以上）は、平成25年から平成45年にかけて約1万人増加すると予測されている。

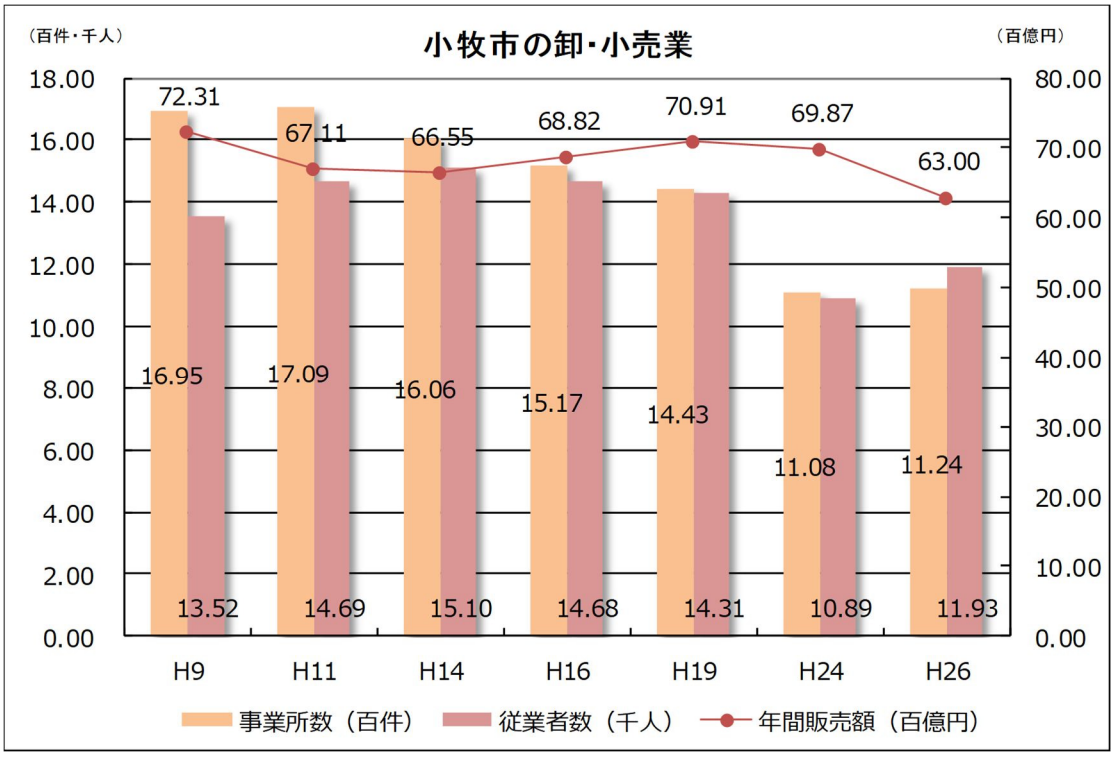


資料：第６次小牧市総合計画　新基本計画

④商業（卸・小売業）の推移

本市全体の卸・小売業の状況をみると、事業所数、従業者数は近年減少傾向にあるものの、平成26年は増加し、事業所数が1,124件、従業者数が11,930人となっている

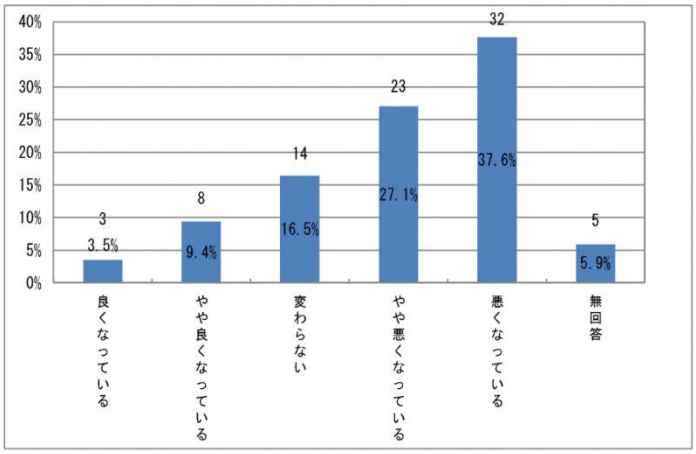
一方、年間商品販売額は平成19年から減少傾向にあり、平成26年は6,300億円となっている。

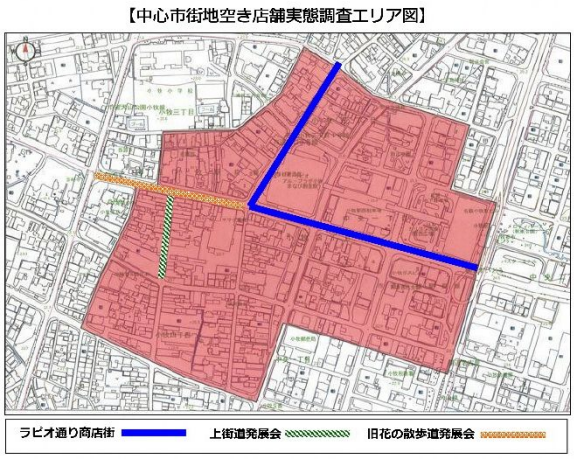


資料：平成 19 年以前は商業統計、平成 24 年以降は経済センサス

本市が行った「中心市街地空き店舗実態調査（平成26年1月）」における事業主に対するアンケートの結果によると、駅西側（中心市街地）の店舗の経営状況は、５年前と比較し「悪くなっている」が37.6%、「やや悪くなっている」が27.1%と、半数以上が経営状況が悪くなったと感じている。

■５年前と比べて経営状況はどうなっていると感じるか





資料：中心市街地空き店舗実態調査（平成 26 年１月）

（２）駅前広場等の利用状況

①交通実態調査

小牧駅西駅前広場などの利用実態を把握するため、平成26年9月29日 に交通実態調査を実施した。過去に実施した交通実態調査結果と比較することが可能な項目については、調査結果の比較を行い、交通実態の変化を把握する。

１） タクシー・一般車の出入台数（小牧駅西駅前広場）

一般車の出入台数は大きな変化は見られないが、タクシーの出入台数は355台減少している。

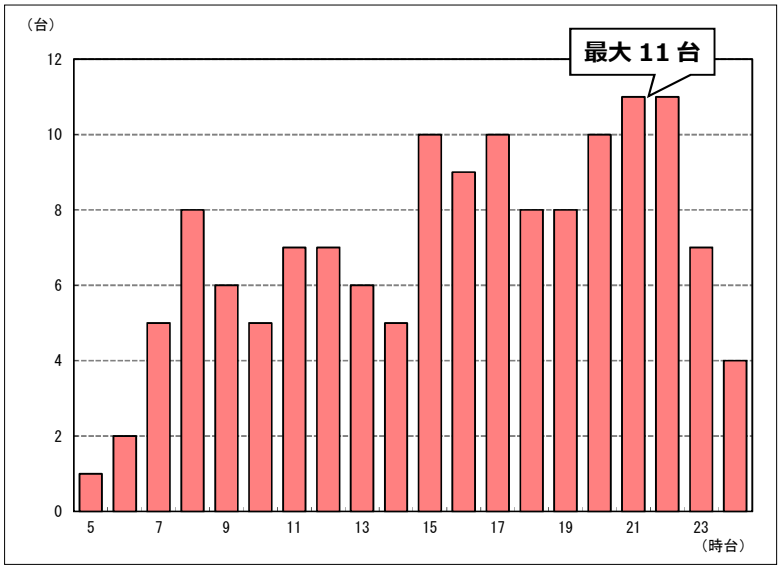
■出入台数の合計比較

	一般車出入台数/日	タクシー出入台数/日
平成 26 年 9 月	1,067 台	802 台
平成 20 年 7 月	1,094 台	1,157 台
増減	△27 台	**△355 台**

※一般車の出入台数には、小牧駅地下駐車場を利用した車両は含まない。

タクシー待機場については、収容台数16台に対して最大滞留台数は11台（21時～23時）であり、5台の余裕があった。（平成26年9月）

■タクシー待機場時間帯別最大待機台数



２）バス待機台数等（小牧駅東駅前広場）

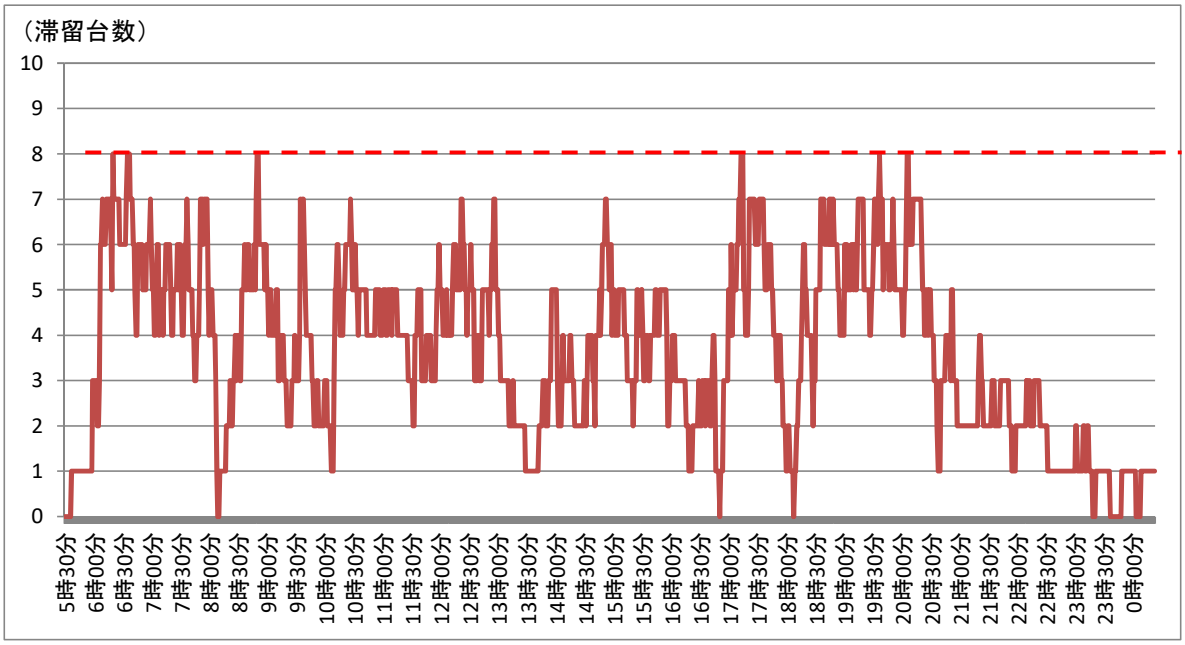
バスターミナルのバス発車台数及び待機場利用台数については、バスの運行コースなどに変化がないことから、数値に大きな変動はない。

■バス待機台数比較

	発車台数/日	待機場利用台数	
		総数/日	ピーク時の待機台数
平成 26 年 9 月	292 台	251 台	8 台
平成 20 年 7 月	302 台	262 台	8 台
増減	△10 台	△11 台	0 台

なお、バス待機場は3レーンで9台程度の収容台数に対し、ピーク時に8台の待機があった。

■バス滞留台数（平成 26 年 9 月 29 日）



３）駅周辺路上駐停車台数

小牧駅周辺の路上駐停車（K&R※等含む）が多い区間は、駅東公園北の区間②で168台（K&R※等99台、駐停車69台）、駅西駅前広場南の区間⑩で128台（K&R※等 86台、駐停車42台）となっている。

※キス・アンド・ライドの略：最寄りの鉄道駅まで自分以外の人が運転する自家用車で送ってもらい乗り継ぐ方式

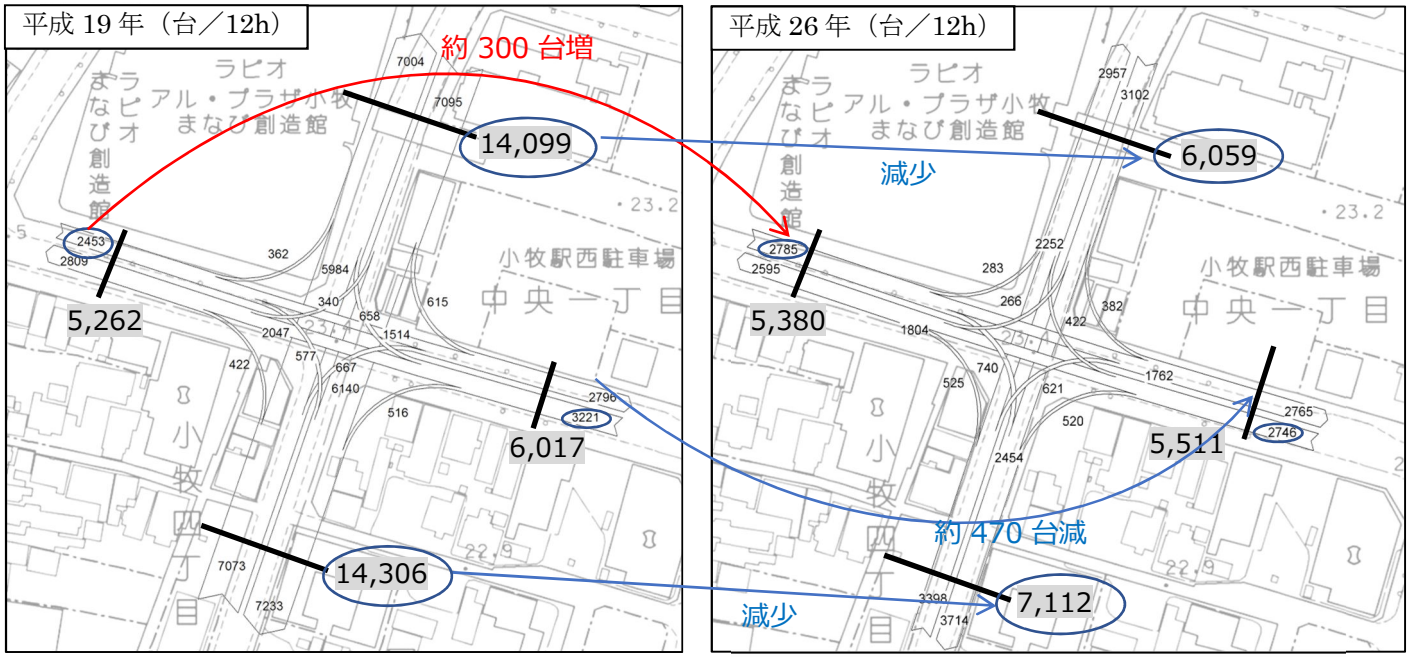
区間	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	計
平成 26 年 9 月	23	168	12	28	13	29	35	15	31	128	38	76	596 台／日
平成 20 年 7 月	37	214	25	6	27	49	33	23	86	185	119	66	870 台／日

４）交差点方向別自動車交通量

■小牧三丁目東交差点

小牧三丁目東交差点の方向別自動車交通量は、小牧駅西側を地下で南北方向に通過する都市計画道路名古屋犬山線が直線でつながったことなどから、平成19年と比較し南北方向交通量が大きく減少し、断面交通量が約14.2千台「(14,099＋14,306)/2」から6.6千台「(6,059＋7,112)/2」と半減している。

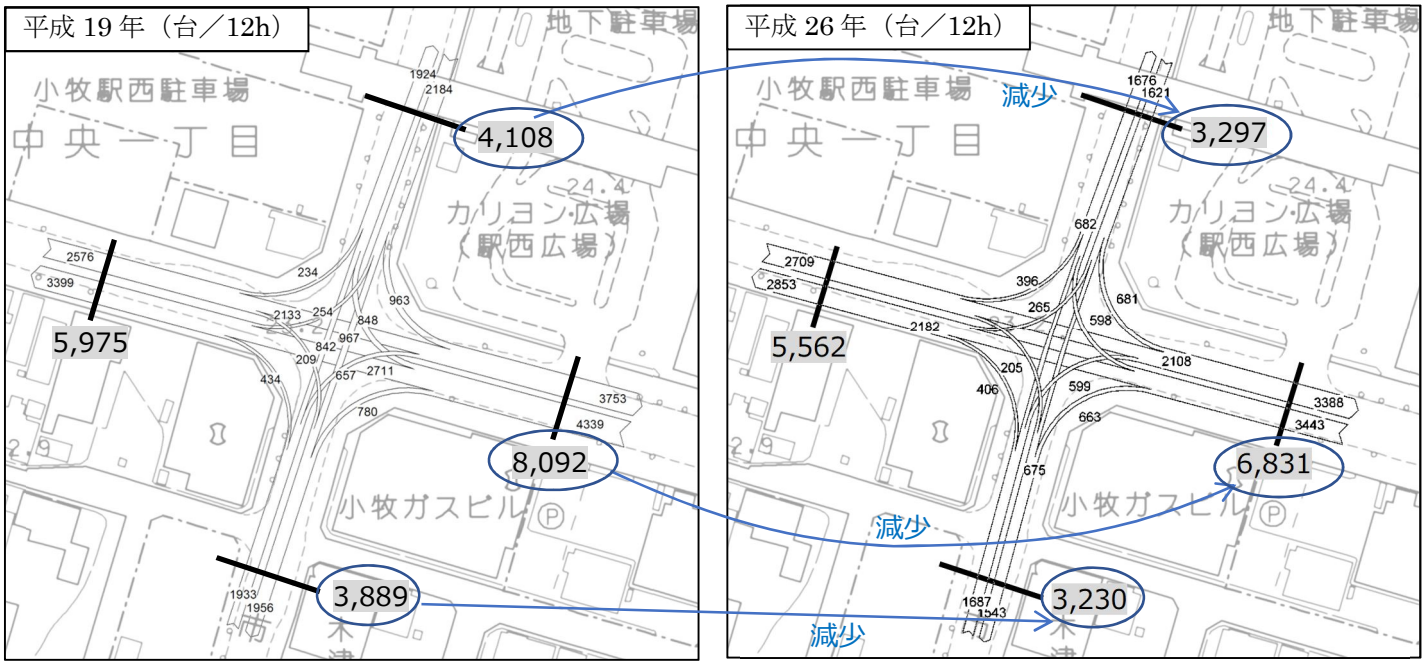
東西方向については、市道小牧駅前線の西方に延伸する市道宮前４号線が相互通行となり東方へも通過できるようになったことなどから、交差点西側から小牧駅方面の交通量が約300台増加しているが、小牧駅方面からラピオ方面の交通量が約470台減少している。



■小牧駅西交差点

小牧駅西交差点の方向別自動車交通量は、平成19年と比較し、南北方向の断面交通量が同様に約4.0千台「(4,108＋3,889)/2」から約3.3千台「(3,297＋3,230)/2」に減少している。

東西方向は、同様のことから交差点東側の断面交通量が約8.1千台から約6.8千台に減少している。



②ペデストリアンデッキの利用状況

平成28年12月7日（水）及び18日（日）に小牧駅周辺の歩行者・自転車通行量調査（7時～19時までの12時間）を実施した。

小牧駅側のペデストリアンデッキの歩行者数は、平日193人、休日213人であり、ラピオ側のペデストリアンデッキの歩行者数は、平日227人、休日285人であった。

双方のペデストリアンデッキの歩行者数は、市道小牧駅前線の小牧駅西交差点の歩行者数（平日2,679人、休日1,467人）と比較すると少ない状況となっている。

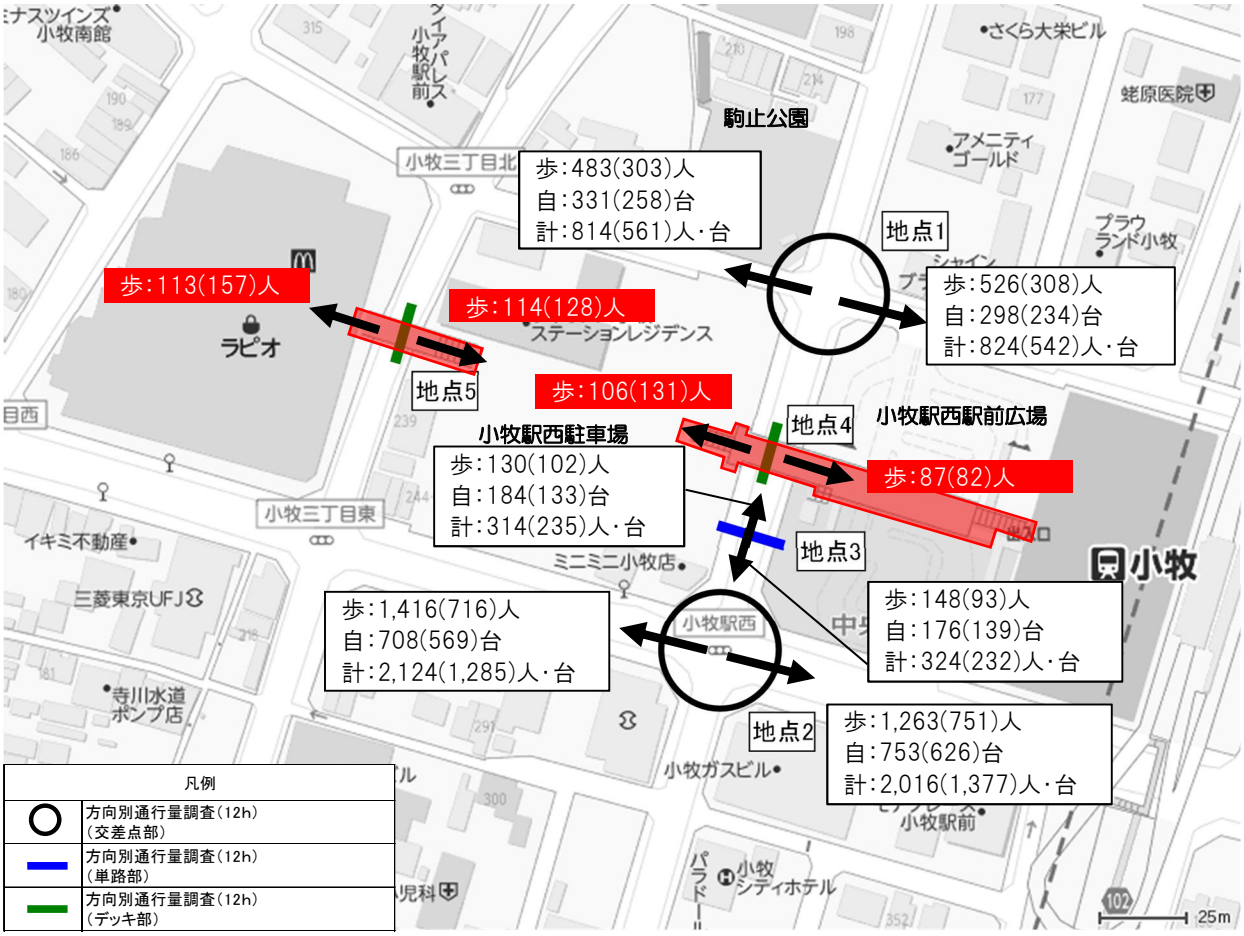
■調査結果一覧表

（単位：人・台/12h）

地点	方向	平日			休日		
		歩行者	自転車	計	歩行者	自転車	計
地点１	東⇒西	483	331	814	303	258	561
	西⇒東	526	298	824	308	234	542
	計	1,009	629	1,638	611	492	1,103
地点２	東⇒西	1,416	708	2,124	716	569	1,285
	西⇒東	1,263	753	2,016	751	626	1,377
	計	2,679	1,461	4,140	1,467	1,195	2,662
地点３	北⇒南	148	176	324	93	139	232
	南⇒北	130	184	314	102	133	235
	計	278	360	638	195	272	467
地点４	東⇒西	106	－	106	131	－	131
	西⇒東	87	－	87	82	－	82
	計	193	－	193	213	－	213
地点５	東⇒西	113	－	113	157	－	157
	西⇒東	114	－	114	128	－	128
	計	227	－	227	285	－	285

■調査結果図

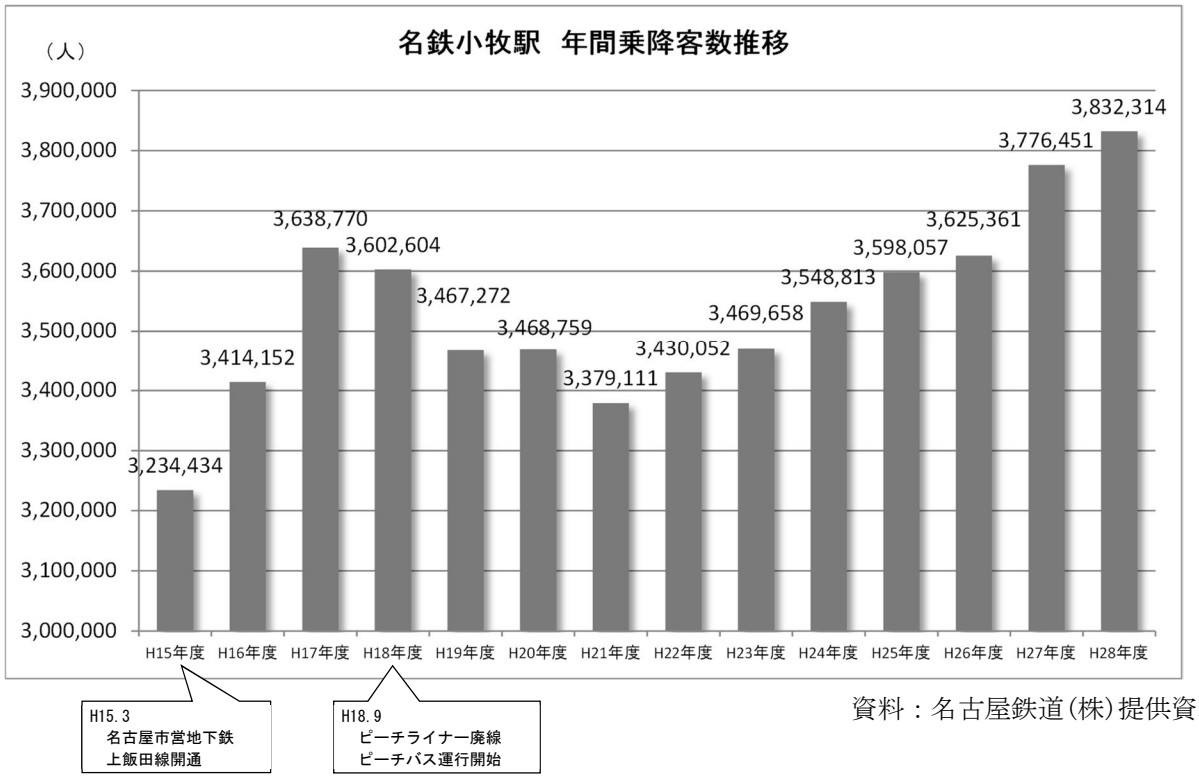
図中の数値は 12 時間あたりの平日・休日の交通量を方向別に合計したもの。（ ）内は休日交通量を示す。



③公共交通機関の利用状況

■名鉄小牧駅の乗降客数

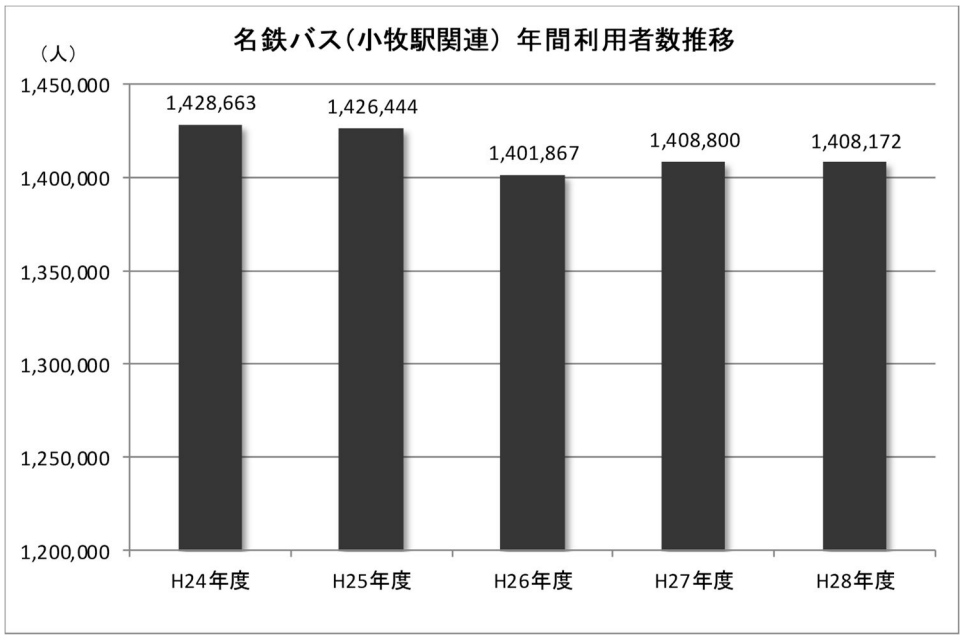
小牧駅の乗降客数の推移をみると、平成15年の名古屋市営地下鉄上飯田線開通に伴い、平成17年度にかけて増加し、その後ピーチライナーの廃線に伴い平成21年度にかけて減少したものの、近年は再び増加傾向にあり、平成28年度の乗降客数は約383万人/年（10,499人/日）となっている。



資料：名古屋鉄道(株)提供資料

■名鉄バス利用者数

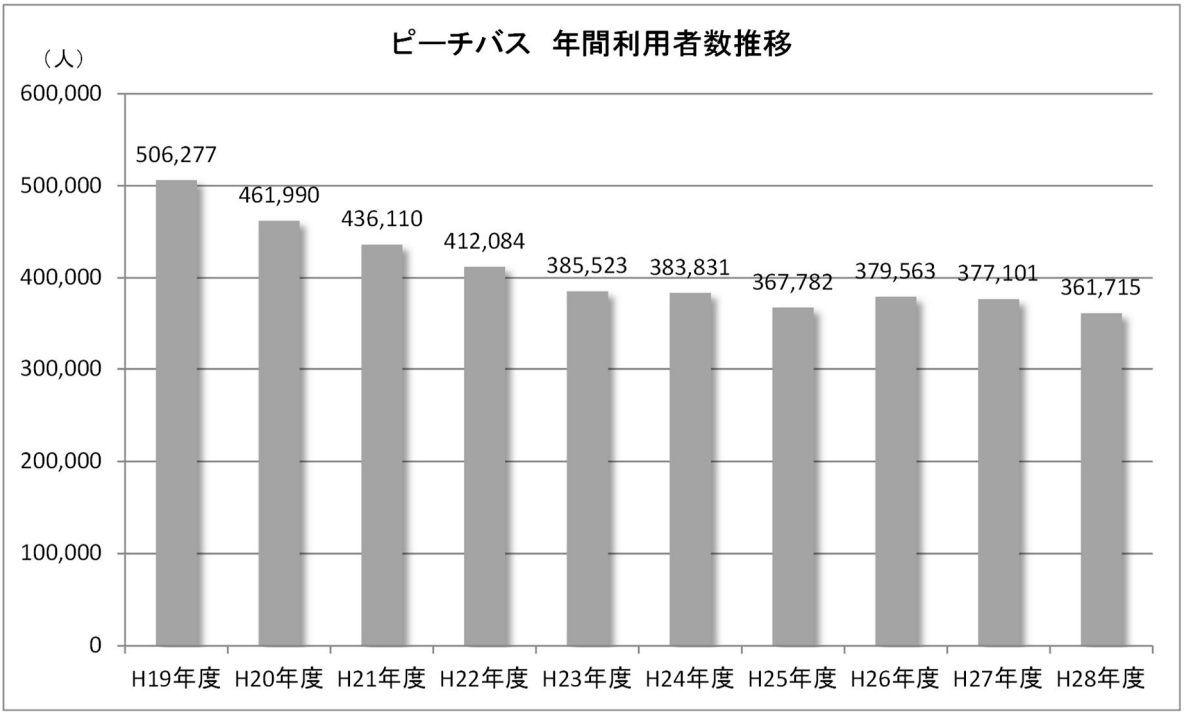
小牧駅を発着・経由する名鉄バス（小牧－春日井、小牧－勝川、小牧－岩倉）の利用者数の推移をみると、平成24年度から平成26年度にかけて減少したものの、近年はほぼ横ばいとなっている。



資料：名鉄バス(株)提供資料

■ピーチバス

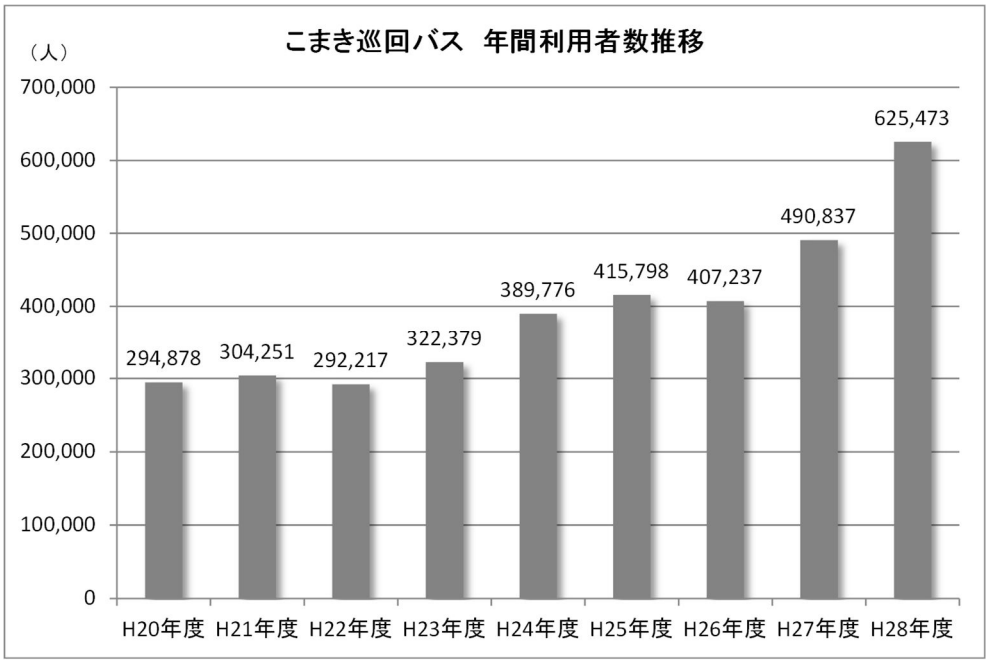
ピーチバスの利用者数は減少傾向にあり、平成19年度は約51万人であったのに対し、平成28年度は約36万人と、年間利用者が約15万人減少している。



資料：あおい交通(株)提供資料

■こまき巡回バス

こまき巡回バスの利用者数の推移をみると、平成23年10月から65歳以上の料金無料化、平成27年4月及び平成28年4月のバスコース再編（1時間に1便程度の運行間隔の確保など）といった施策により、利用者数は増加傾向にあり、平成20年度の利用者数は約29.5万人であったのに対し、平成28年度の利用者数は約62.5万人と約33万人増加している。



資料：小牧市統計年鑑など

小牧駅に発着するこまき巡回バスの運行コース及び発着本数

平成 22 年 4 月～

8 コース　117 本

	コース名	発着本数
1	三ツ渕・村中コース	20
2	藤島・小木コース	16
3	ﾊﾟｰｸｱﾘｰﾅ小牧・横内コース	18
4	小牧・味岡循環 右まわりコース	17
5	小牧・味岡循環 左まわりコース	16
6	春日寺・市之久田コース	14
7	東部小牧・味岡コース	8
8	東部味岡・小牧コース	8

1 コース 56 本 増加

平成 28 年 4 月～

9 コース　173 本

	コース名	発着本数
1	西部右まわりコース	20
2	西部左まわりコース	20
3	南部北里右まわりコース	20
4	南部北里左まわりコース	20
5	ﾊﾟｰｸｱﾘｰﾅ小牧・市役所コース	20
6	小牧・味岡西コース	10
7	小牧・味岡中コース	19
8	北部東部右まわりコース	22
9	北部東部左まわりコース	22

■ＯＤ調査による小牧駅でのバス乗降客数

平成28年に実施したＯＤ調査※による、ある１日の名鉄バス、ピーチバス、こまき巡回バスの小牧駅乗降者数をみると、合計乗車人数は１日約1,020人、合計降車人数は１日約840人であり、１日約1,900人が乗降している。

名鉄バス、ピーチバスは降車人数より乗車人数が多いのに対し、こまき巡回バスは乗車人数より降車人数が多くなっている。

平成25年と比較すると、名鉄バス、ピーチバスは乗降者数が減少する一方、こまき巡回バスは乗降者数が増加している。

■ＯＤ調査によるある１日の小牧駅乗降者数

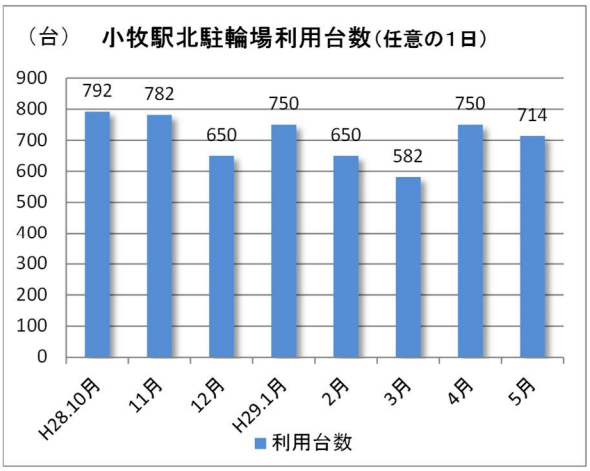
	乗車人数	降車人数	乗降計	調査日	(参考)平成 25 年の乗降計
名鉄バス	540	388	928	平成 28 年　9 月 26 日（月）	1,058
ピーチバス	260	214	474	平成 28 年　9 月 26 日（月）	620
こまき巡回バス	222	240	462	平成 28 年　9 月 5～9 日の平均値	381
計	1,022	842	1,864		2,059

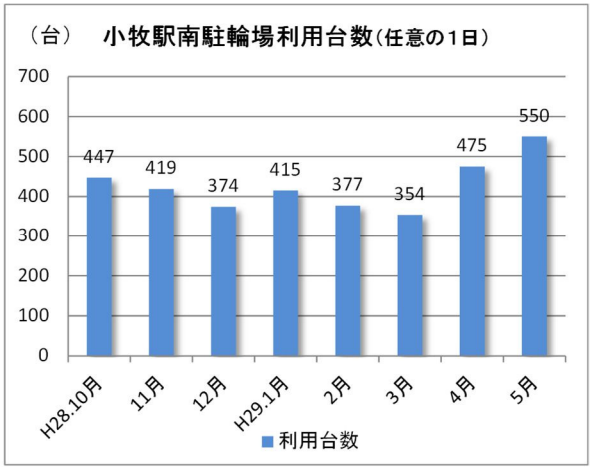
※ＯＤ調査：バス車内に調査員が乗車し、バス利用者の乗車バス停、降車バス停等をヒアリングもしくは調査カードにより把握する調査

④市営駐輪場の利用台数

小牧駅北側及び南側の市営駐輪場の利用台数（平成28年10月～平成29年5月までの各月任意の１日(7時～10時)、放置自転車と思われる自転車含む）の推移をみると、小牧駅北駐輪場は、自転車１台あたり幅40㎝で換算した収容台数625台に対し、平成28年10月は約790台と、収容台数を165台上回っている。小牧駅南駐輪場は収容台数622台に対し、最も利用の多い日（平成29年5月）で約550台であり、112台余裕があった。

利用台数が収容台数を上回る日が確認できるものの、シルバー人材センターに委託している自転車等の整理業務において、駐輪場内に自転車が納まるよう整理を行っている。

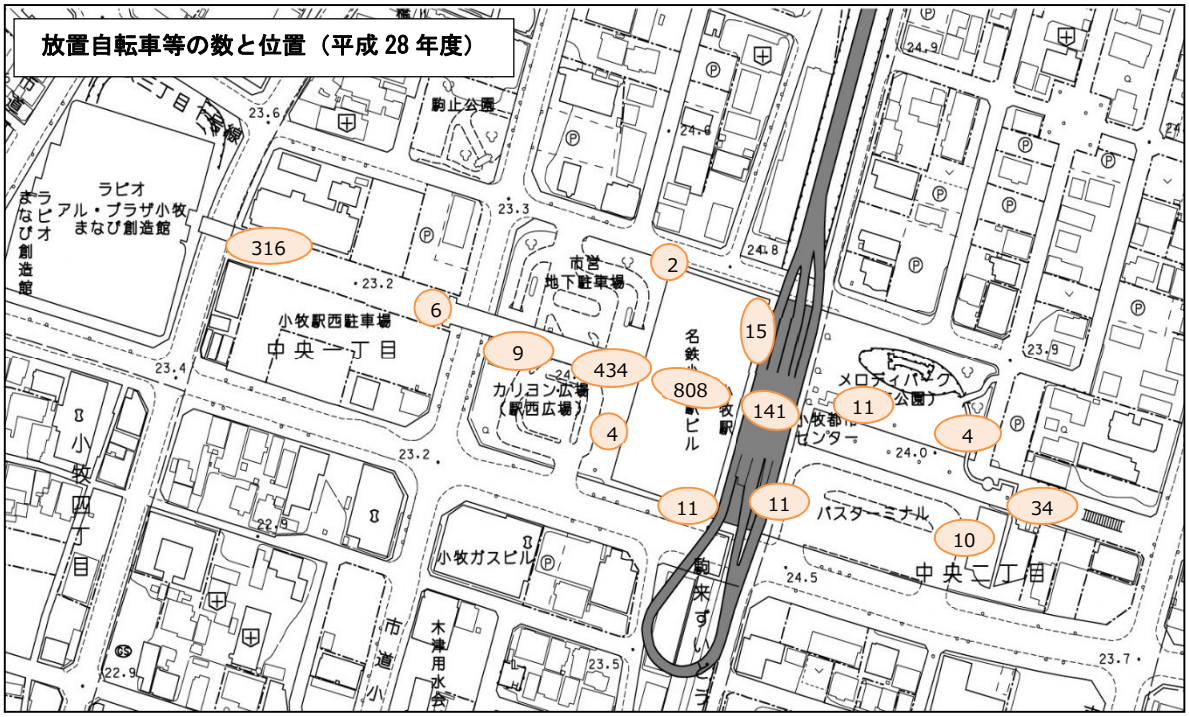




【参考】小牧駅周辺の放置自転車等の状況

平成28年4月1日から平成29年３月31日までの小牧駅周辺の放置自転車等の状況をみると、名鉄小牧駅ビルのコンコース内が808台と最も多く、次いで小牧駅側のペデストリアンデッキの下が434台、ラピオ側のペデストリアンデッキの下が316台となっており、名鉄小牧駅の出入口付近が多くなっている。

自転車から名鉄小牧線に乗り換えるため、駅改札付近に駐輪する人が多いと考えられる。



※放置自転車等の台数は、市がシルバー人材センターへ委託している「小牧駅前広場自転車整理等業務委託」の業務報告書における駐輪禁止札添付件数及び自転車移動台数を積み上げたもの。(7 時～9 時、9 時～11時、13 時～15 時、15 時～17 時の時間帯に日替わりで整理業務を実施)
また、放置自転車等の位置はおおよそのものであり、詳細な位置を示すものではない

⑤市営駐車場の利用台数

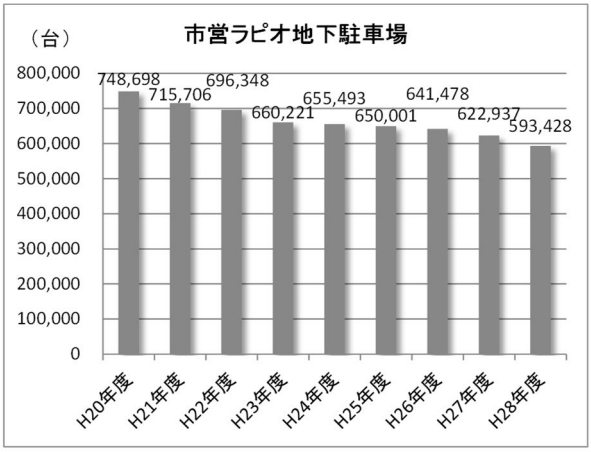
小牧駅周辺の市営駐車場における年間利用台数の推移をみると、ラピオ地下駐車場は減少傾向にあり平成20年度から平成28年度にかけて、約74.9万台から約59.3万台と約15.6万台減少している。

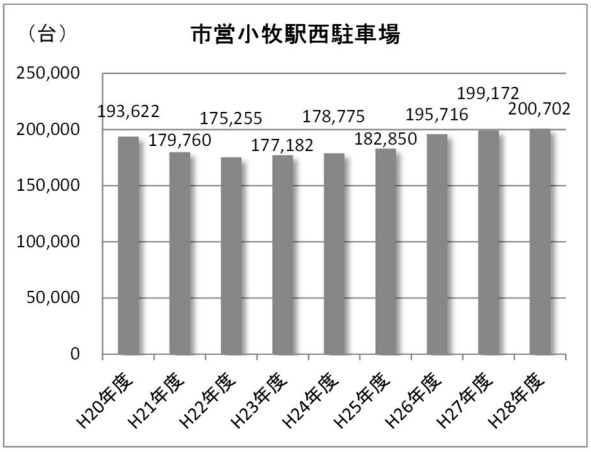
小牧駅西駐車場は平成20年度から平成22年度にかけて約1.9万台減少したが、その後は微増している。

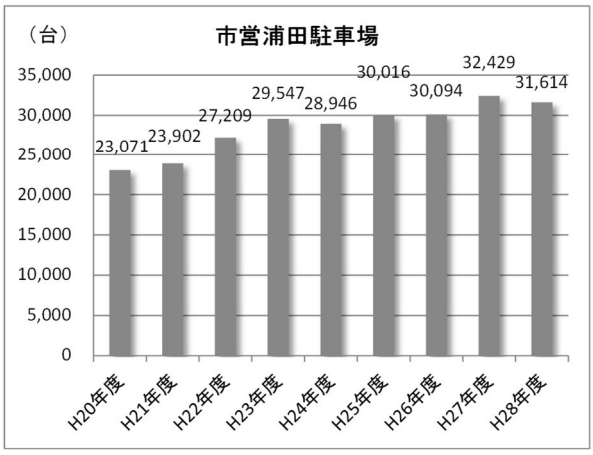
浦田駐車場は平成20年度から微増傾向にあり、平成28年度は平成20年度と比較して約0.8万台増加している。

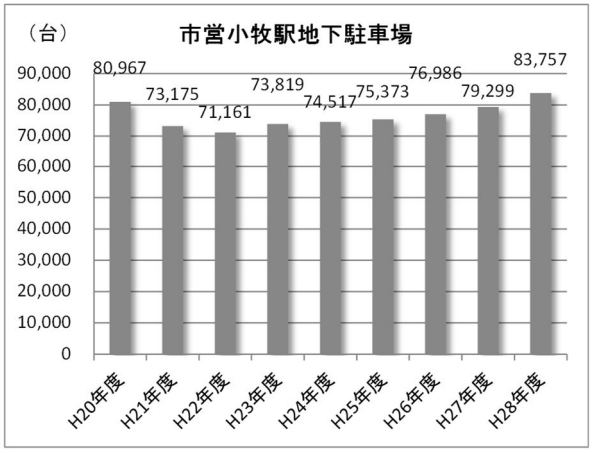
小牧駅地下駐車場は平成20年度から平成22年度まで約1万台減少しているが、その後は増加傾向にある。

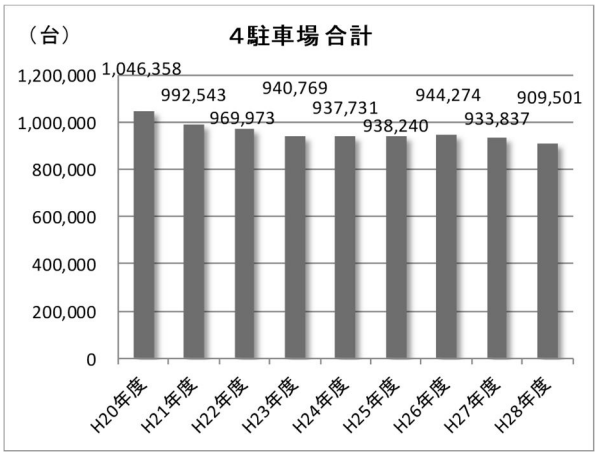
小牧駅周辺の市営駐車場を合計すると、平成20年度から減少傾向にあり平成28年度までに約13.7万台減少している。











資料：小牧市

⑥小牧駅周辺のイベント開催の状況

小牧駅周辺では、小牧市民まつりや小牧駅周辺イルミネーションをはじめ、中心市街地の活性化を図るため、地元商店街・市民団体等からなる「小牧にぎわい隊」がラピオ通り商店街などで定期的にイベントを開催している。

また、小牧駅東公園（メロディーパーク）においても、地域住民や市民活動団体においてイベント利用されている。

■ 平成 28 年度 小牧駅周辺の主なイベント開催状況

行事名	小牧平成夏まつり	小牧市民まつり	秋葉祭
主催者	小牧平成夏まつり実行委員会 ラピオ通り商店街振興組合	小牧市民まつり実行委員会 小牧市	地元区（中町、横町、片町 上之町、下之町）
開催日	７月２３日、２４日	１０月１５日、１６日	８月２０日、２１日
場所	ラピオ通り商店街、小牧駅前線、 小牧駅東公園	小牧駅東公園、ラピオ、 小牧駅前線、小牧山など	ラピオ通り商店街、小牧駅前線
参加者 (概算)	約９万人	約１９万人	

行事名	小牧駅周辺 イルミネーション	小牧城見市	にぎわいフェスティバル
主催者	小牧市	小牧にぎわい隊	小牧にぎわい隊
開催日	１１月１１日～１月１３日	４月～６月、９月～10 月、12 月の第２日曜日（年６回）	３月１２日
場所	にぎわい広場、小牧駅前線、 ポケットパーク、ラピオ壁面	ラピオ西側 （東春信用金庫職員駐車場）	ラピオ通り、小牧駅前線、 上街道
参加者 (概算)			

■ 平成 28 年度 小牧駅東公園（メロディーパーク）の主なイベント利用状況

行事名	小牧ぶらり市	小牧平成夏まつり （山車待機場）	朝日区民盆踊り
主催者	ぶらり旅 in 小牧(市民活動団体)	小牧平成夏まつり実行委員会 ラピオ通り商店街振興組合	朝日区
利用日	５月１５日	７月２３日、２４日	８月５日～８月７日
人数 (概算)	約１千人	約１千人	約４５０人

行事名	小牧市民まつり （小牧駅前会場）	ぶらりマルシェ in 小牧	天体観測
主催者	小牧市民まつり実行委員会 小牧市	ぶらり旅 in 小牧(市民活動団体)	小牧市天文ボランティア
利用日	１０月１１日～１０月１８日	１１月２７日	適宜
人数 (概算)	約１万５千人	約１千人	

２．小牧駅周辺の課題

（１）市民アンケート調査結果

本市に住民登録をしている満18歳以上の市民4,000人を対象に、小牧駅東駅前広場等の整備に関するアンケート調査を実施した。

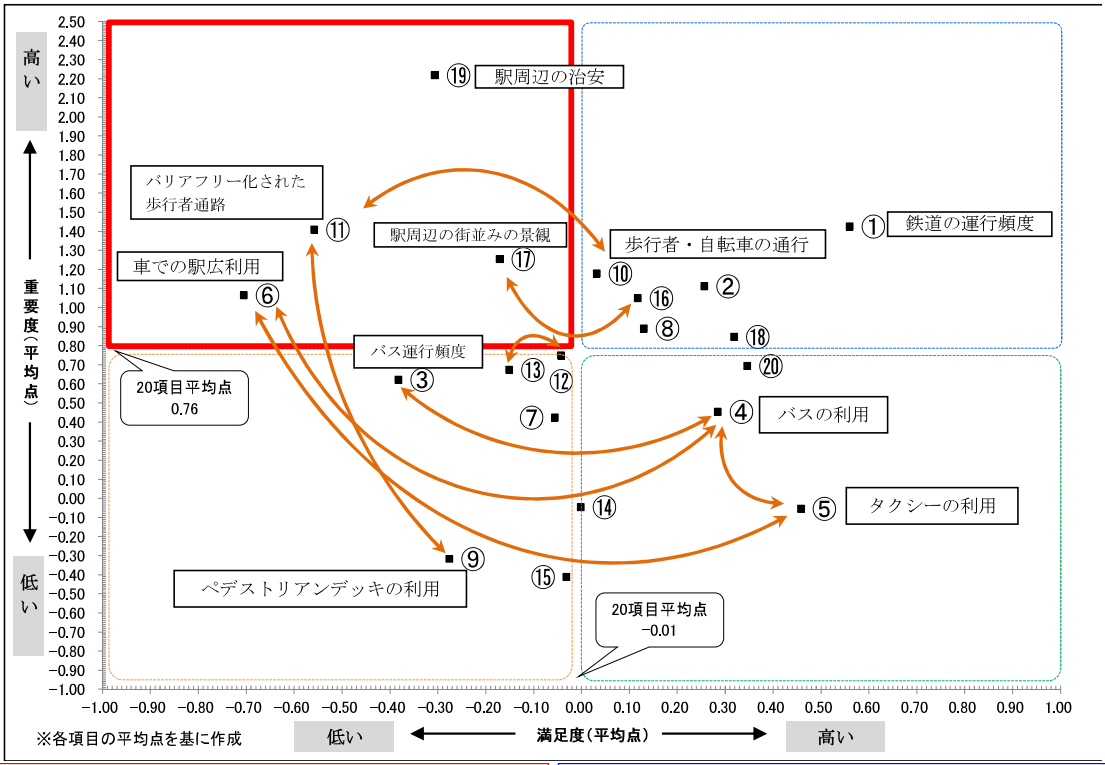
- 配布数：4,000票（回収数：2,201票、回収率　55.0%）
- 調査時期：平成27年2月27日（発送）～平成27年3月31日（回収締切）

①小牧駅周辺のまちづくりに対する評価

小牧駅周辺のまちづくりに対する満足度平均得点（横軸）をみると「車（送迎等）での駅前広場の利用のしやすさ」、「お年寄り、子ども、身体の不自由な人の通行のしやすさ」、「バス運行頻度」、「小牧駅周辺の治安」に対する満足度が低い。

また、重要度平均得点（縦軸）をみると「小牧駅周辺の治安」、「お年寄り、子ども、身体の不自由な人の通行のしやすさ」、「名鉄小牧線の運行頻度」、「小牧駅周辺の街並みの景観」の重要度が高い。

したがって、市民ニーズとしては、満足度が低く重要度が高い項目である「小牧駅周辺の治安」、「お年寄り、子ども、身体の不自由な人の通行のしやすさ」、「車（送迎等）での駅前広場の利用のしやすさ」、「小牧駅周辺の街並みの景観」について対策が必要だと考えられる。



⑥車（送迎等）での駅前広場の利用のしやすさ
⑪お年寄り、子ども、身体の不自由な人の通行のしやすさ
⑰小牧駅周辺の街並みの景観
⑲小牧駅周辺の治安

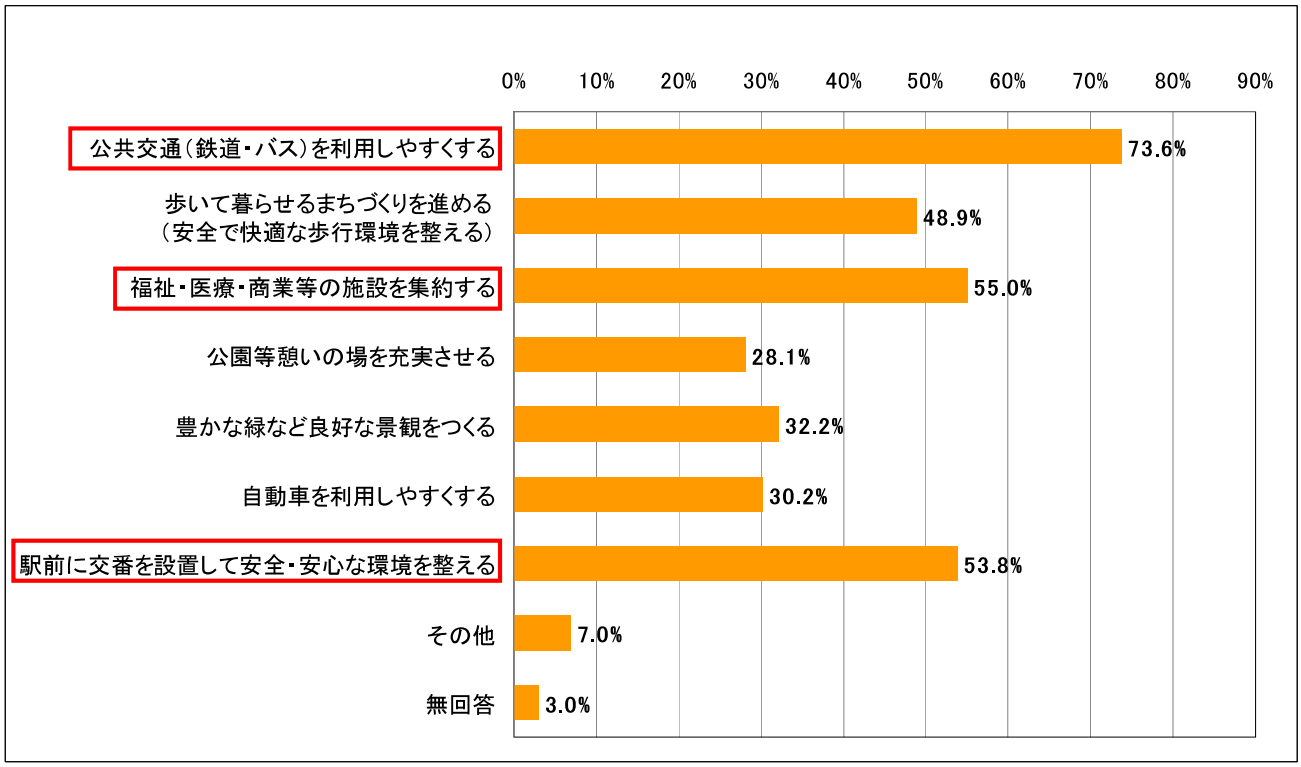
①名鉄小牧線の運行頻度
②名鉄小牧駅の利用のしやすさ
⑧小牧駅周辺での駐車場の収容台数
⑩歩行者や自転車での通行のしやすさ
⑯小牧駅周辺の緑の多さ
⑱都市センター（小牧駅出張所・少年センター）の利用のしやすさ

③小牧駅で利用できるバスの運行頻度
⑦小牧駅地下駐車場の利用のしやすさ
⑨駅西広場の歩道橋（ペデストリアンデッキ）の利用のしやすさ
⑫市営駐輪場の利用のしやすさ
⑬小牧駅周辺での駐輪場の収容台数
⑮音楽噴水等の公園設備

④駅東広場のバス利用のしやすさ
⑤駅西広場のタクシー利用のしやすさ
⑭公園の利用のしやすさ
⑳小牧駅周辺で開催されるイベント

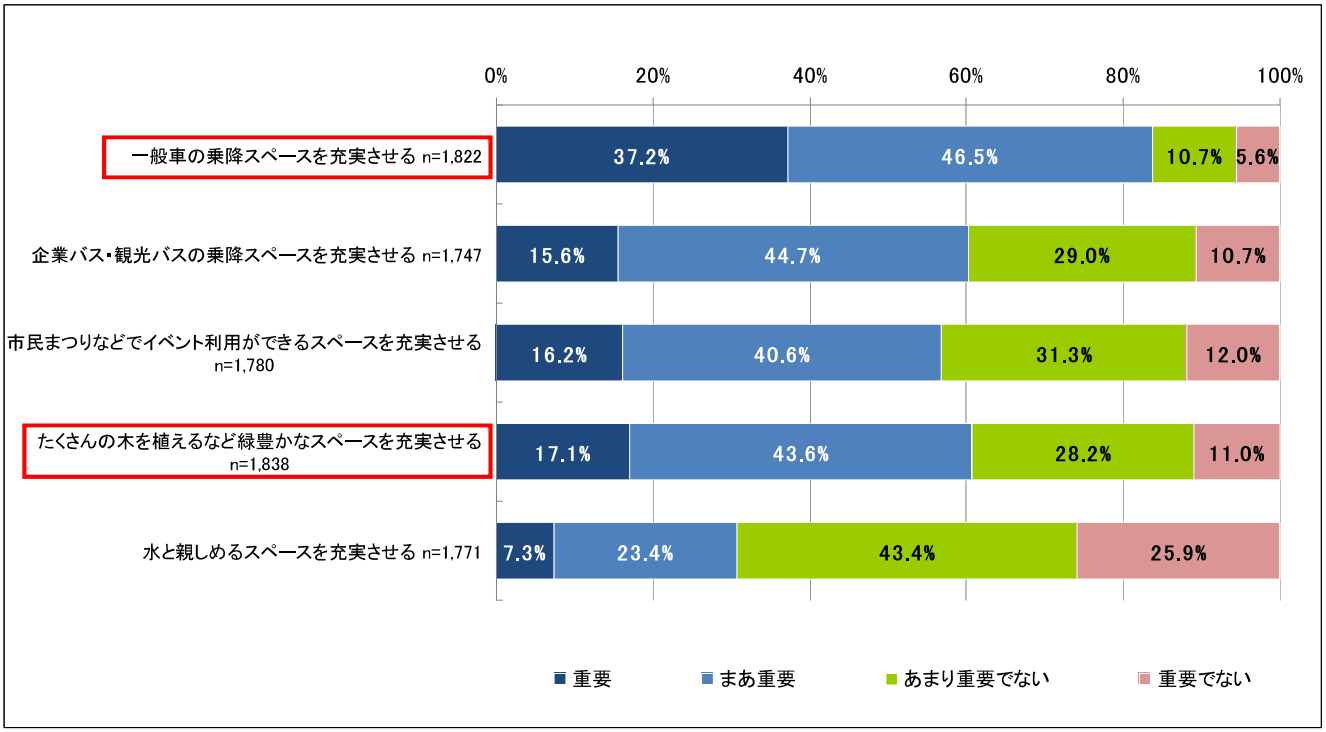
②人口減少・少子高齢化を見据えた小牧駅周辺のまちづくり

人口減少・少子高齢化の進行を考えた場合、小牧駅周辺のまちづくりに重要な項目として、「公共交通（鉄道・バス）を利用しやすくする」と回答した人が約74%を占めている。次いで、半数以上の方が「福祉・医療・商業等の施設を集約する」、「駅前に交番を設置して安全・安心な環境を整える」と答えている。



③小牧駅東駅前広場の整備について

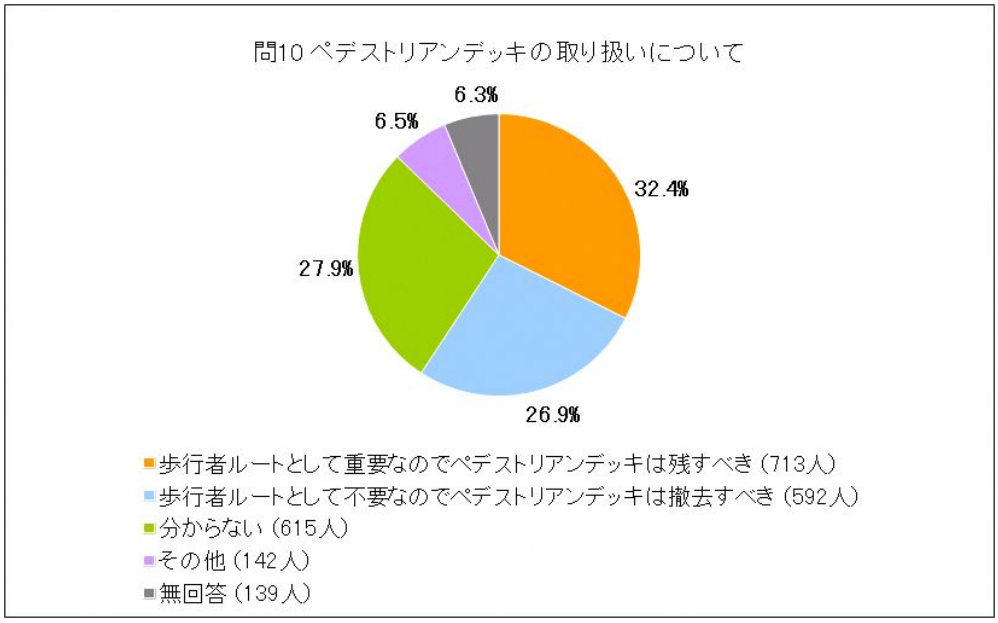
小牧駅周辺整備計画に基づきバスターミナルを駅西へ移設し、桃花台線インフラを撤去した後に、小牧駅東駅前広場の整備を行うにあたり、重要な項目について伺った結果、「一般車の乗降スペースを充実させる」が最も重要となっている。次いで「たくさんの木を植えるなど緑豊かなスペースを充実させる」となっている。

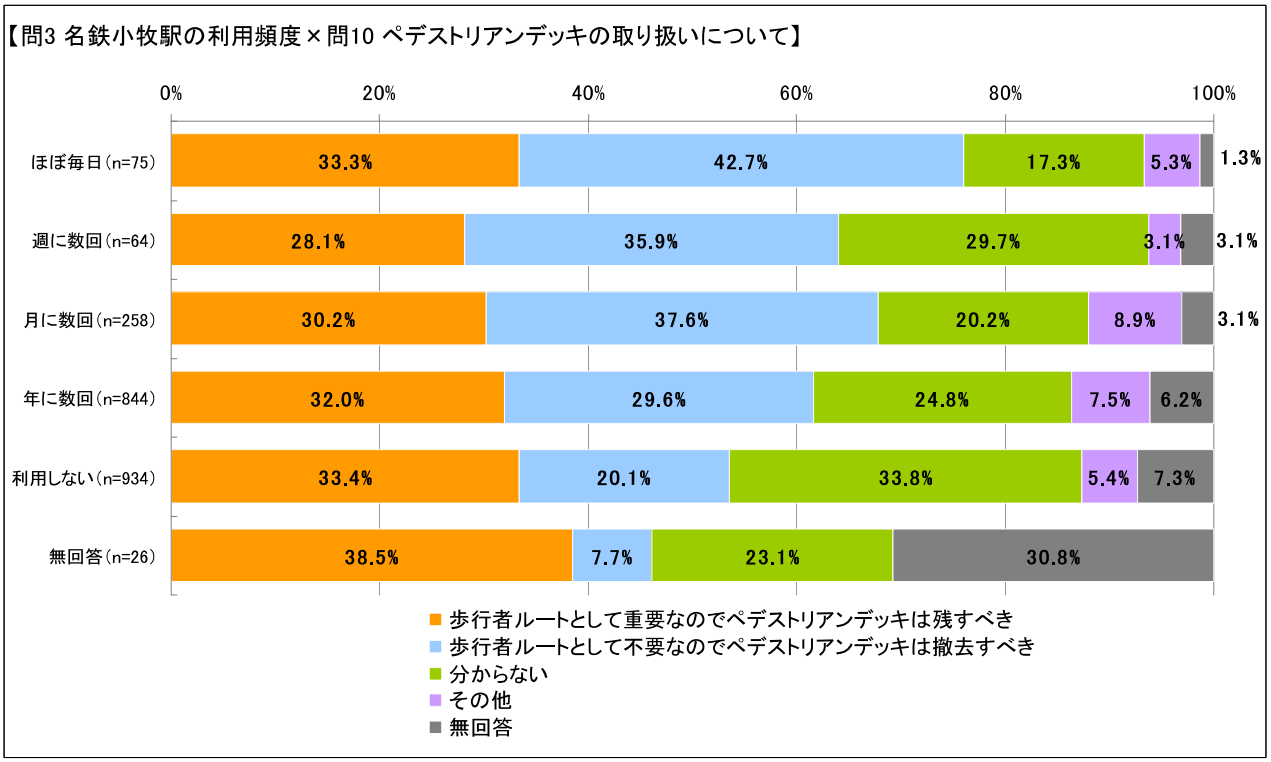


④駅側のペデストリアンデッキについて

駅側のペデストリアンデッキの取り扱いについては、「歩行者ルートとして重要なので残すべき」と回答した方が約32%、次いで、「分からない」と回答した方が約28%、「歩行者ルートとして不要なので撤去すべき」と回答した方が約27%となっている。

しかし、名鉄小牧駅の利用頻度別の駅側のペデストリアンデッキの取り扱いは、利用頻度が「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回」と比較的高い方は、「歩行者ルートとして不要なので、撤去すべき」という回答割合が高い。





（２）市民意識調査の自由意見・要望

平成29年3月に実施した第６次小牧市総合計画新基本計画（計画期間：平成26年度～平成30年度）の推進に係る市民意識調査では、下記のとおり小牧駅周辺についての自由意見・要望が寄せられている。

≪小牧駅周辺についての主な自由意見・要望≫

- 小牧駅周辺に待ち合わせができるカフェがほしい。名古屋から来る友人と待ち合わせできるわかりやすいカフェ（スタバ、コメダ、ミスド、ドトール等）がない。（女性　30歳代 光ヶ丘）
- 小牧駅周辺など飲食店も少なく、知人が来た時など案内する場所がない。これといったものもないので、知人が来た時などは、春日井市を案内する方が多い。（男性　30 歳代　本庄）
- 小牧駅内か近郊に人と待ち合わせの喫茶店等があると良い（女性　65～69 歳　味岡）
- 小牧駅の辺りが寂しすぎます。もっと有効活用してほしい。使っていないピーチライナーの駅をなんとかしてほしい。（女性　40 代　篠岡）
- 駅前周辺の開発に期待しています。飲食店、カフェ、書店、図書館など、複合施設でもよいので、あったらもっと駅周辺が明るくなると思う。今は駅近くで過ごせるような場所がなく、時間をつぶすのに不便。夜間はさらに人も少なく、何となくイメージが暗い。（女性　30 歳代　一色）
- 小牧駅付近をもっと何とかしてほしい。小牧駅、もっとおしゃれな店がほしい。駅が暗く、一人では夜は怖い。賑わいがない。（女性　30 歳代　一色）

（３）周辺の市営駐車場

平成29年12月現在、周辺の市営駐車場は、小牧駅地下201台、小牧駅西130台、ラピオ地下475台、浦田39台の計845台である。また、周辺には民間の一時預かり駐車場も立地している。

市営駐車場については、ラピオテナントの退店等もあり、ピーク時一時預かり駐車需要の調査結果から、ラピオ地下の地下２階及び小牧駅地下の地下２階は日常的に空きの多い状況となっているなど、相当数の収容余力があることを確認している。(「小牧市駐車場整備計画（H30.3改定)」では、駐車場整備地区における現況駐車需給バランスで、381台の収容余力がある。)

しかしながら、新図書館の建設により現在の小牧駅西駐車場は廃止となり、その収容台数である130台が滅失し、ラピオ地下駐車場も利用者の利便性向上に向けた改修を予定しており、その収容台数は60台減少して475台から415台に変更となる予定である。

また、（仮称）こども未来館及び新小牧市立図書館の整備により駐車需要の変化が見込まれ、将来の駐車需給バランスを予測しつつ、市営駐車場を展望する必要がある。

なお、将来の駐車需給バランス予測の前提条件は、小牧市駐車場整備計画に基づき、以下のとおりとする。

１．予測は、平日より休日の方が駐車需要が多いため、休日のピーク時で行う。
２．今年度実施した各市営駐車場におけるピーク時一時預かり駐車需要の調査結果等を用い、小牧駅周辺部における将来（平成33年）の駐車需要予測を行う。
３．（仮称）こども未来館の休日のピーク時一時預かり駐車需要を157台とする。
４．新図書館の休日のピーク時一時預かり駐車需要を130台とし、敷地内に新設する駐車場収容台数を60台と仮定する。

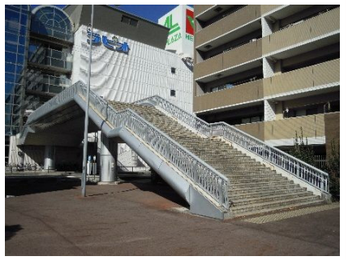
Ａ街区周辺地区における休日の予測では、収容台数に不足が１台生じる結果となった。

従って、直ちに新たに規模の大きな駐車場を建設して対応する必要性は無いものの、今後の状況を注視し、予測との乖離が見受けられる場合については、改めて検証を行い必要な対策を検討することとする。

（４）小牧駅周辺施設の現状と課題

ペデストリアンデッキ（ラピオ側）

・平成７年９月に完成した後、２２年が経過しており、施設が老朽化している。
・バリアフリー化されていない。
・歩行者数が少ない。
・ラピオとＡ街区に建設予定の新小牧市立図書館との連携を考慮し、歩行者動線として検討する必要がある。



ペデストリアンデッキ（小牧駅側）

・平成２年８月に完成した後、２７年が経過しており、施設が老朽化している。（雨漏りなど排水不良、タイル破損による修繕の増加など）
・バリアフリー化されていない。歩行者数が少ない。
・小牧駅西駅前広場の機能見直しに伴い、存廃を検討する必要がある。

駒止公園

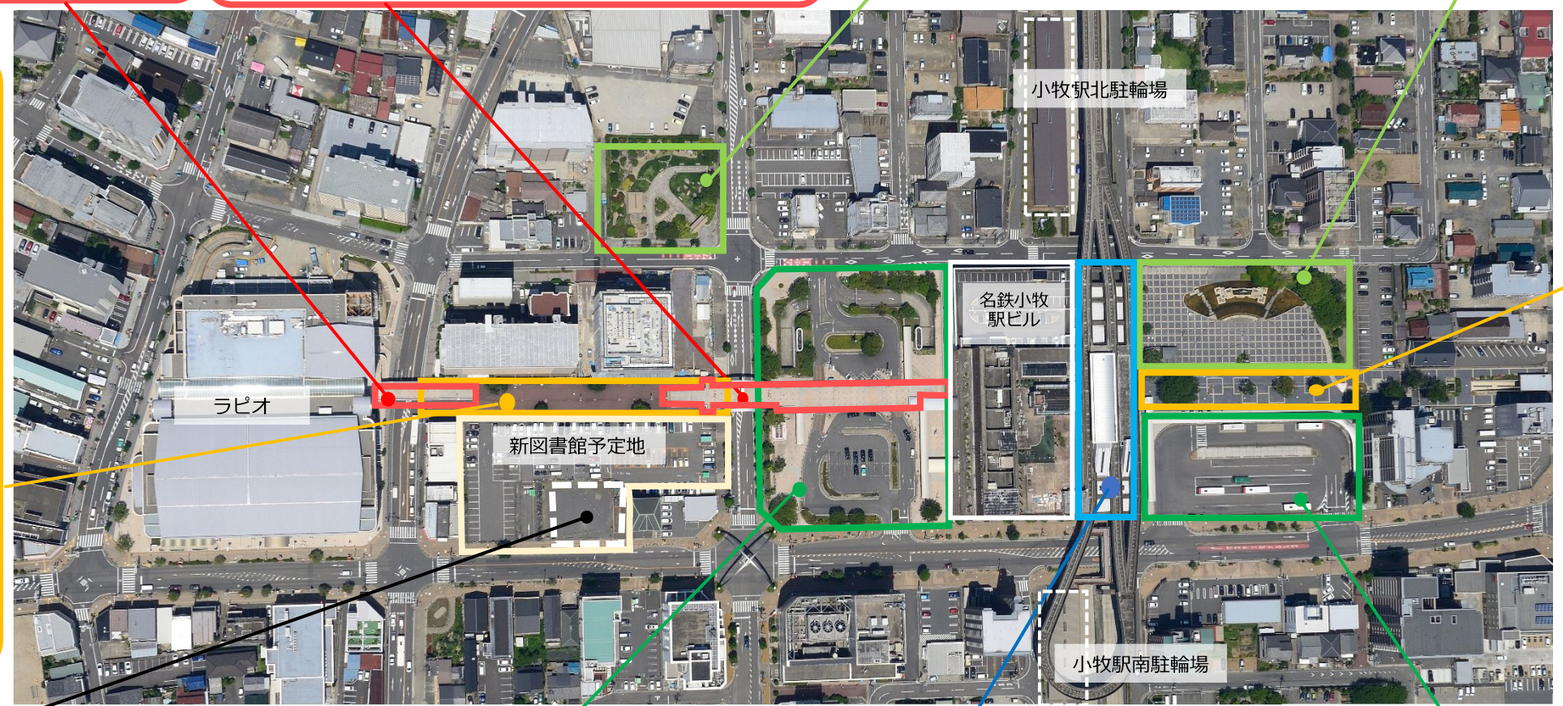
・日本庭園として整備されており、駅西側の貴重な緑の空間となっている。

駅東公園（メロディーパーク）

・平成２年１１月の供用開始から２７年が経過しており、音楽噴水、タイル、トイレ、時計塔や照明灯などの設備が老朽化している。
・音楽噴水は、部品の廃番など、更新費用が高額なため、休止中。

歩専１号線

・歩道舗装、照明灯、ベンチ、排水路などの施設が老朽化している。
・名鉄小牧駅からラピオまでの歩行者専用道路となっているが、歩行者は少ない。
・Ａ街区に建設予定の新小牧市立図書館のデザインと調和した景観の整備が望まれる。



歩専３号線

・経年劣化に伴い、タイル、照明灯、ベンチなどの修繕が増加傾向にある。
・駅東公園、小牧駅東駅前広場の再整備に併せた景観の整備が望まれる。

にぎわい広場

・平成夏まつり、小牧駅周辺イルミネーションなどのイベントで利用されている。
・新小牧市立図書館の建設によりイベント広場の機能がなくなるため、代替機能の確保が望まれる。

小牧駅西駅前広場

・平成２年１０月の供用開始から２７年が経過しており、タイル、道路舗装、シェルター、時計塔、照明灯、トイレなどの設備が老朽化している。
・一般車乗降場のスペースの確保など利便性向上が課題。
・広場北側に身体障がい者用の駐車スペースを設置。
・小牧駅地下駐車場がバリアフリー化されていない。

旧桃花台線小牧駅舎

・平成２７年８月に愛知県から桃花台線の全線撤去の方針が示された。
・小牧駅舎の跡地を有効利用した小牧駅東の再整備が望まれている。

小牧駅東駅前広場（バスターミナル）

・平成３年４月の供用開始から２６年が経過しており、タイル、道路舗装、シェルターなどの設備が老朽化している。
・名鉄小牧線やタクシーとの乗換えの利便性向上を図るなど、交通結節点機能の強化が課題。また、こまき巡回バスの運行コース及び本数の増加に対応することが必要である。

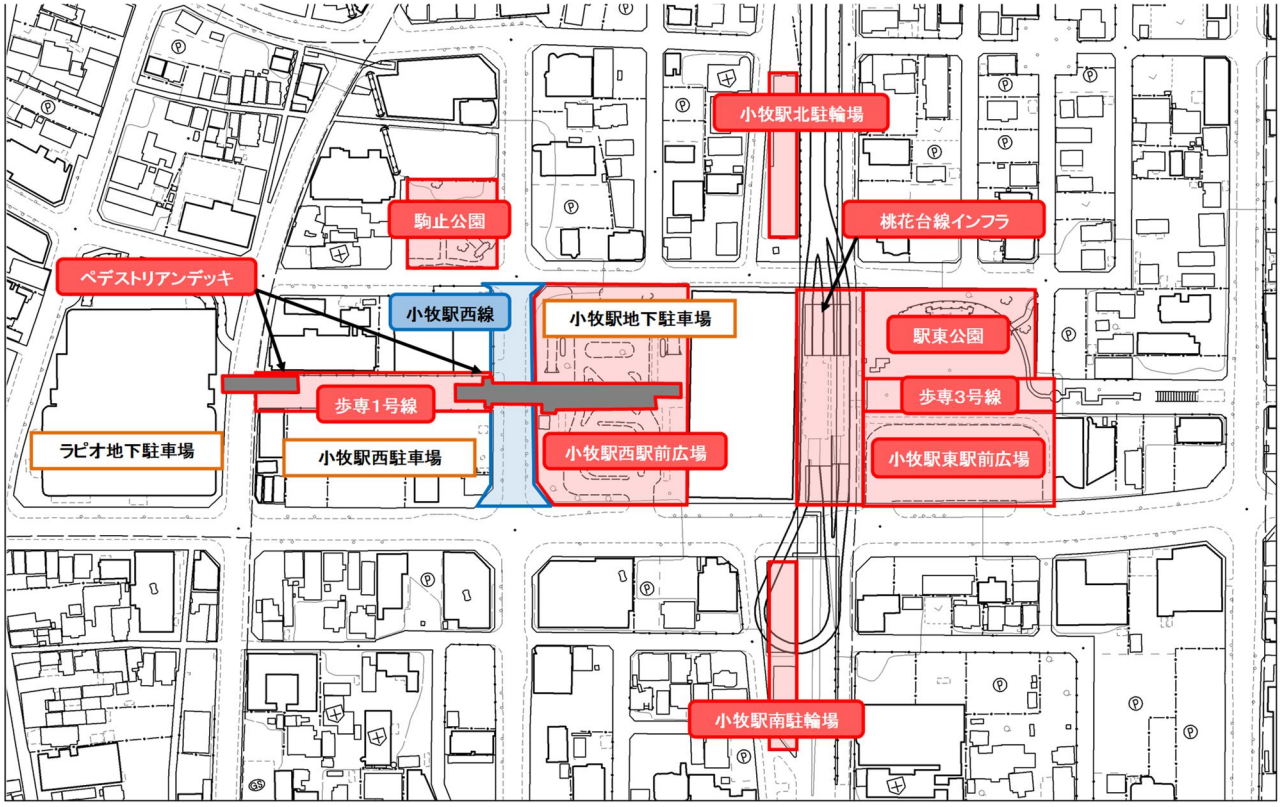
Ⅲ 小牧駅前広場等整備基本構想の基本方針

１．小牧駅前広場等整備基本構想の検討範囲

平成20年3月に「小牧駅周辺整備計画」を策定した後、小牧駅周辺を取り巻く主な環境変化として、平成26年11月に東春信用金庫がＡ街区北東部に移転オープンしたこと、平成27年8月に愛知県から新交通システム桃花台線（ピーチライナー）の全線撤去の方針が示されたこと、また、平成29年6月に市営小牧駅西駐車場及びにぎわい広場として暫定利用しているＡ街区南側の市有地に新小牧市立図書館を建設する方針が示された。

これらを踏まえ、小牧駅前広場等整備基本構想の検討範囲は、小牧駅西駅前広場、小牧駅西線、歩専１号線、ペデストリアンデッキ、小牧駅東駅前広場、歩専３号線、駅東公園、桃花台線インフラ撤去後の小牧駅舎跡地などとする。

■基本構想の検討範囲



２．小牧駅周辺の位置づけ・現状・課題のまとめ

「Ⅰ　小牧駅前広場等整備の目的・位置づけ」、「Ⅱ　小牧駅周辺の現状と課題」での整理を踏まえ、小牧駅前広場等の整備にあたり、目指すべき方向性について示す。

小牧駅前広場等整備の位置づけ・小牧駅周辺の現状と課題

第６次小牧市総合計画新基本計画

- 交通結節点である鉄道駅周辺において、公共交通利用者の利便性を高めるため、駅前広場などを整備する。【①】
- 名鉄小牧駅周辺の整備を行い、中心市街地としての魅力を高め、にぎわいを創出する。【③】

小牧市都市計画マスタープラン

- 小牧駅周辺から市役所・小牧山周辺の一帯を「中心拠点」と位置づけ、まちなか居住、商業・業務、文化、医療・福祉、行政等の機能を誘導し、広域的な都市機能が集積したにぎわいと活気に満ちた本市の顔にふさわしい中心拠点の形成を図る。（全体構想）【③】
- 公共交通に関しては、名鉄小牧線を南北鉄道軸と位置づけ、小牧駅周辺の中心拠点と味岡駅周辺の地域拠点等の拠点間連携や、名古屋・犬山方向の都市間移動需要への対応を図るとともに、東西市街地の連携強化に資する東西公共交通（バス）軸の形成を図り、小牧駅周辺の中心拠点と桃花台センター地区及び藤島地区の地域拠点等の拠点間連系や、春日井・岩倉方向の都市間移動需要への対応を図る。（全体構想）【①】
- 小牧駅周辺における中心市街地の景観の整備【②】
- 緑豊かで環境にやさしく、魅力的で活気とにぎわいに満ちた小牧駅周辺の形成【②】
- にぎわい創出事業の実施等によるまちの活性化、商店街の再生【③】
- 小牧駅周辺での徒歩や自転車で楽しめる環境づくり（歩車分離、歩行者・自転車ネットワークの整備等）【④】

小牧市立地適正化計画

- 小牧駅を中心としたエリアについては、広域的な都市機能の誘導・集積を目指すとともに、利便性の高い公共交通ネットワーク構築を図る「中心拠点」に位置づけ、中心拠点を中心に公共交通ネットワークを構築することで、中心拠点とその他の拠点間などの連携を強化。【①】
- 「中心拠点」に市民全体の生活利便性の向上に寄与するような「広域的な都市機能」を誘導するとともに、「地域拠点」や「公共交通軸である鉄道駅周辺」などに「日常生活に必要な都市機能」を誘導するなど、地域特性に応じた機能を誘導・集積することが必要。【③】

交通実態調査

- バス乗降場は、現在のバス運行本数・コース等が維持されることを前提に、現状と同規模を確保する必要がある。また、こまき巡回バスの運行本数等の増加への対応（乗降場の増設など）について検討が必要。【①】
- タクシー乗降場は、現状と同規模を確保する必要がある。タクシー待機場は、スペースに余裕がある。【①】
- 一般車乗降場は、スペースを拡充することによって小牧駅前線の路上駐停車の減少が期待できる。【①】
- 駅側のペデストリアンデッキの歩行者数は、市道小牧駅前線の小牧駅西交差点の歩行者数と比較すると、少ない状況。【④】

市民アンケート調査等

- 市民アンケート調査結果では、市民ニーズが高い項目として、次の４つの項目が挙げられる。
  - ①「車（送迎等）での駅前広場の利用のしやすさ」【①】
  - ②「小牧駅周辺の街並みの景観」【②】
  - ③「お年寄り、子ども、身体の不自由な人の通行のしやすさ」【④】
  - ④「小牧駅周辺の治安」【⑤】
- 市民アンケート調査結果では、今後の小牧駅周辺のまちづくりに重要な項目として、次の３つの項目が挙げられる。
  - ①「公共交通（鉄道・バス）を利用しやすくする」【①】
  - ②「福祉・医療・商業等の施設を集約する」【③】
  - ③「駅前に交番を設置して安全・安心な環境を整える」【⑤】
- 市民アンケート調査結果では、駅前広場の整備について重要な項目として、「一般車の乗降スペースを充実させる」、「たくさんの木を植えるなど緑豊かなスペースを充実させる」ことが挙げられる。【①】【②】
- 市民アンケート調査結果では、ペデストリアンデッキの取り扱いについて、名鉄小牧駅の利用頻度が比較的高い方は、「歩行者ルートとして不要なので、撤去すべき」という回答割合が高い。【④】
- 市民意識調査の自由意見・要望の中で、小牧駅周辺に関する項目として、「待ち合わせができるカフェがほしい」、「小牧駅周辺に飲食店が少ない」、「小牧駅の辺りが寂しすぎる、もっと有効活用してほしい」、「夜間は人も少なく、何となくイメージが暗い」、「駅が暗く、一人では夜は怖い、にぎわいがない」といったことが挙げられる。【③】【⑤】
- 小牧駅周辺では、地元商店街・市民団体などが定期的にイベントを開催しており、中心市街地のにぎわい創出のため、継続的なイベント開催を期待するとともに、新たなにぎわいを創出するためのイベント需要に応えるため、オープンスペース（広場機能）の確保が求められる。【③】

目指すべき方向性

- ① 公共交通の利便性向上
- ② 緑豊かな空間の創出
- ③ にぎわいの創出
- ④ 快適な歩行者空間の整備
- ⑤ 安全・安心な環境の整備

３．整備の基本方針

小牧駅前広場等整備の目的・位置づけ、小牧駅周辺の現状と課題から、小牧駅前広場等整備の目指すべき方向性として、「公共交通の利便性向上」、「緑豊かな空間の確保」、「にぎわいの創出」、「快適な歩行者空間の確保」、「安全・安心な環境の確保」が挙げられる。これらを踏まえ、小牧駅前広場等整備基本構想については、次の５つの基本方針をもとに策定する。

基本方針1 公共交通の利便性向上のため交通結節点機能を強化

- 鉄道・バス・タクシーの公共交通機関相互の乗換えを円滑にするなど公共交通の利便性向上を図り、初めて本市を訪れる人や高齢者など誰もが利用しやすい駅となるよう交通結節点機能を強化します。

【主な取組み】

① 駅の東西に分散しているバス乗降場とタクシー乗降場を集約化する。
② 一般車乗降場のスペースを拡充する。

基本方針2 「緑豊かでやすらぎのある空間」の創出

- 環境や景観に配慮しながら駅前広場や駅東公園などの緑化を推進し、人々が憩うことができる居心地の良いやすらぎのある空間を創出します。

【主な取組み】

① 駅東公園は緑豊かなやすらぎのある空間整備を行う。
② 駅東公園のデザインと調和した歩専３号線の景観整備を行う。
③ 貴重な緑の空間として駒止公園を維持する。

基本方針3 駅前の好立地を活かした「新たなにぎわい空間」の創出

- 中心市街地における「新たなにぎわい」を創出するため、駅前に人々が“集い・滞在し・交流できる空間”を創出し、「小牧の顔」にふさわしい魅力あるまちづくりを目指します。

【主な取組み】

①「新たなにぎわい」創出を図るため、駅西駅前広場にオープンスペースとして広場機能を確保する。
② 新小牧市立図書館のデザインと調和した歩専１号線の景観整備を行う。
③ 小牧駅西線の電線類地中化を行い、駅西駅前広場とＡ街区の一体感のある景観を確保する。

基本方針4 駅周辺施設をつなぐ「快適な歩行者空間」の整備

- 交通結節点となる小牧駅からＡ街区に建設予定の新小牧市立図書館、ラピオなどの施設をつなぐ快適な歩行者空間を整備します。

【主な取組み】

① 駅側のペデストリアンデッキを撤去し、バリアフリーを考慮して地上レベルで快適な歩行者動線を確保する。
② ラピオ側のペデストリアンデッキ及び地下通路は、新小牧市立図書館とラピオの連携を考慮し、利便性と経済性を比較しながら歩行者動線として検討する。
③ 小牧駅地下駐車場にエレベーターを設置し、障がい者などに対応した整備を図る。

基本方針5 安全・安心な駅前環境の整備

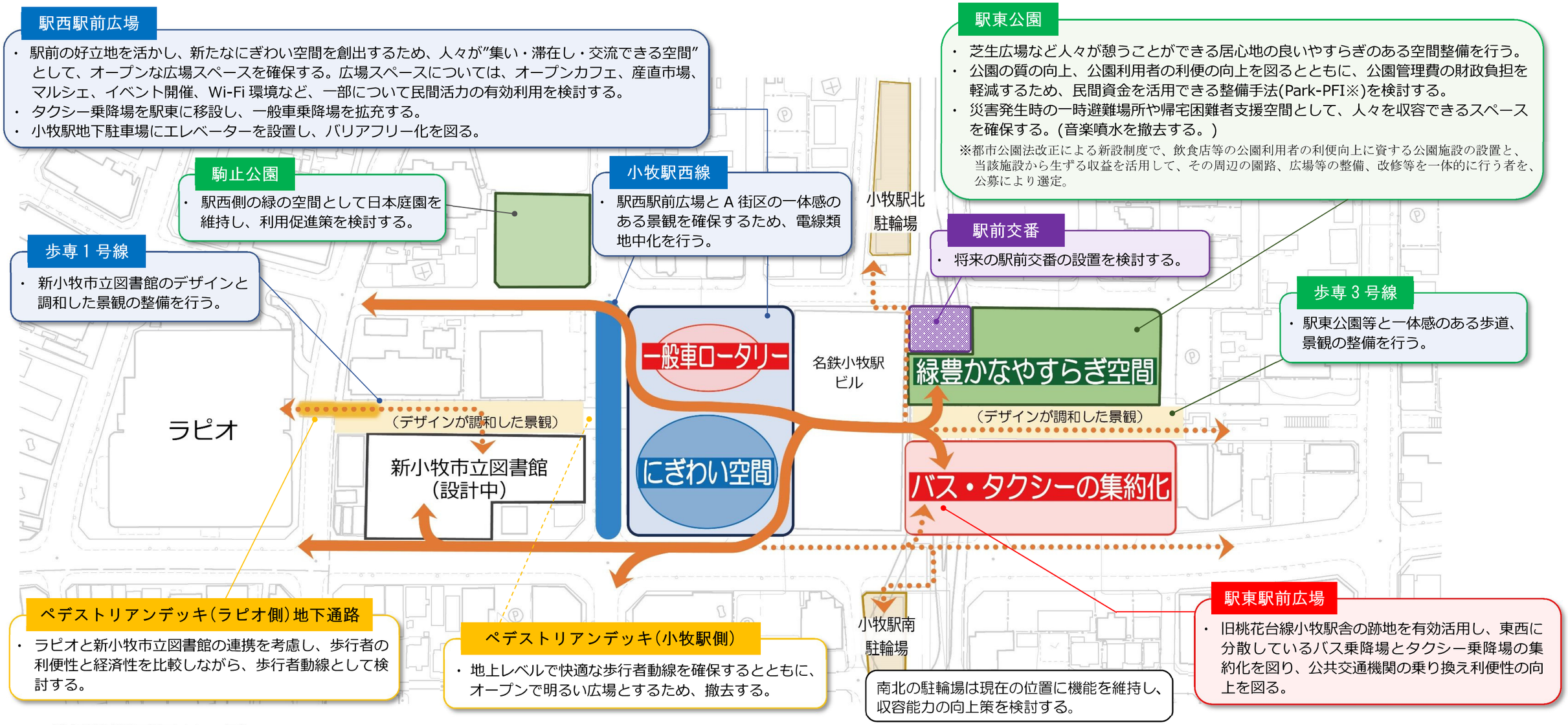
- 小牧駅の周辺施設を安全・安心して利用することができる環境の整備を目指します。災害時に帰宅困難者の一時避難場所などを確保します。

【主な取組み】

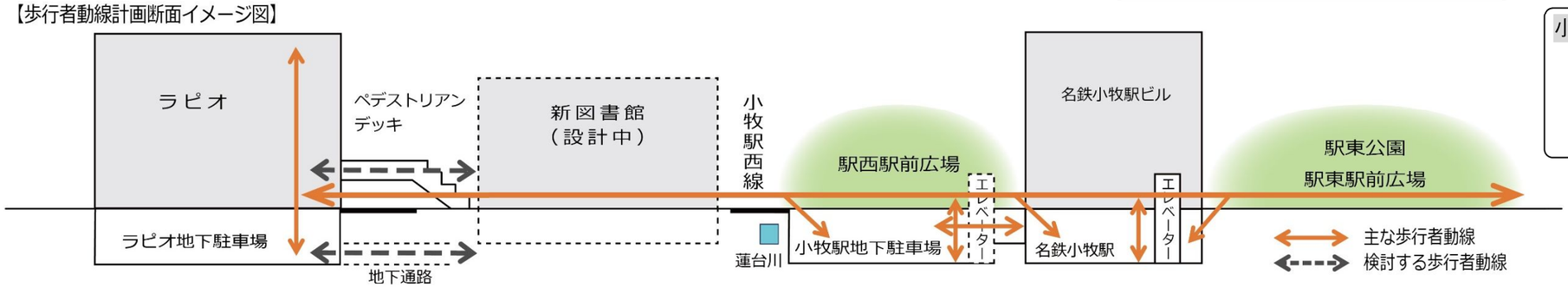
① 災害時に帰宅困難者の一時避難場所などを確保するため、駅東公園に人々が集えるスペースを整備する。
② 夜間でも安心して駅周辺施設を利用できるように照明などを適切に配置し、明るさを確保する。
③ 将来の駅前交番の設置、防犯カメラの充実を検討する。

4．整備イメージ図

- 小牧駅前広場等の整備について、５つの基本方針に基づき、施設配置等のイメージ図を作成した。
- 駅西駅前広場及び駅東公園の整備については、民間活力を有効利用し、新たなにぎわい空間を創出するとともに、駅利用者の利便性向上につながる整備手法を検討する。
- 駅前整備にあたっては、夜間も安心して駅周辺の施設を利用できるように照明などを適切に配置し、明るさを確保する。また、防犯カメラの充実を検討する。



【歩行者動線計画断面イメージ図】



小牧駅周辺の市営駐車場

将来の駅周辺の駐車需給バランスを予測した結果、大規模な駐車場整備の必要性は少ないが、今後の駐車需要を注視しつつ、予測と乖離が生じた場合、改めて検証し、対応策を検討する。

５．民間活力による道路空間、都市公園の活用事例

１．道路空間の活用事例：旅する新虎マーケット（東京都港区 新虎通り）

■事業概要：全国津々浦々の魅力を集め、編集・発信し、地方創生へつなげる“The Japan Connect”を目的とするプロジェクト。約３ヶ月ごとに出展自治体が替わり、全国の様々な体験を提供。

■開催場所：新虎通り（2020 年東京オリンピック・パラリンピックでメインスタジアムと選手村を結ぶシンボルストリート）

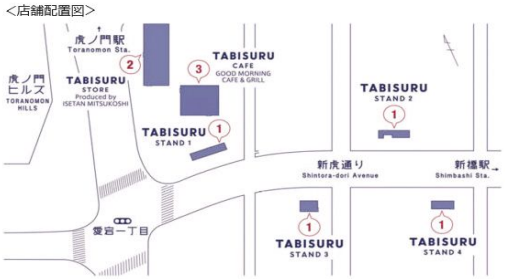
■事業手法：都市再生特別措置法に基づく道路占用の特例（占用主体：一般社団法人新虎通りエリアマネジメント）

■主　　催：2020 年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合※

■企画運営：旅する新虎マーケット事務局（㈱バルニバービ、㈱BAGN、㈱三越伊勢丹、森ビル㈱）

※2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を、スポーツの祭典に留まるものではなく、これを契機に各地が特色を活かした様々な取組みを行うことで、地域の活性化と魅力の発信につながると捉え、意欲ある 570 市町村（2018 年 3 月 23 日時点）が広域的な連携を図ることを目的に、2015 年 6 月に設立。

■事業期間：2017 年 2 月～2018 年 3 月（※2018 年 4 月からは「旅するマーケット」として展開）



Photo：Kenta　Hasegawa

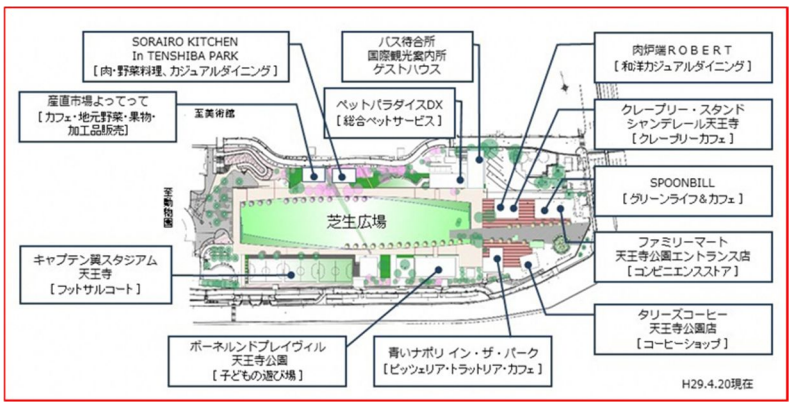
２．都市公園の活用事例：天王子公園エントランスエリア　てんしば（大阪市天王寺区）

■事業概要：天王寺公園のうち、有料かつ施設の老朽化などで充分に活用されていなかったエントランスエリアの魅力向上のため、官民連携によるエントランスエリアの再整備・管理運営・魅力創造事業を包括的に行う者を大阪市が公募。
大規模な芝生広場を中心にその周囲に公園との親和性を考慮した木造・低層店舗（カフェ・レストラン、こどもの遊び場など）を連続的に配置することで、回遊性を高めるだけでなく、天王寺動物園などの周辺施設との機能的・空間的連携を図り、公園全体を活性化。再整備による効果は、公園にとどまらず、周辺エリアに波及している

■事業手法：都市公園法に基づく公園施設設置許可・管理許可

■事 業 者：近鉄不動産株式会社

■事業期間：平成 27 年から 20 年間



６．駅西駅前広場「にぎわい空間」のイメージスケッチ

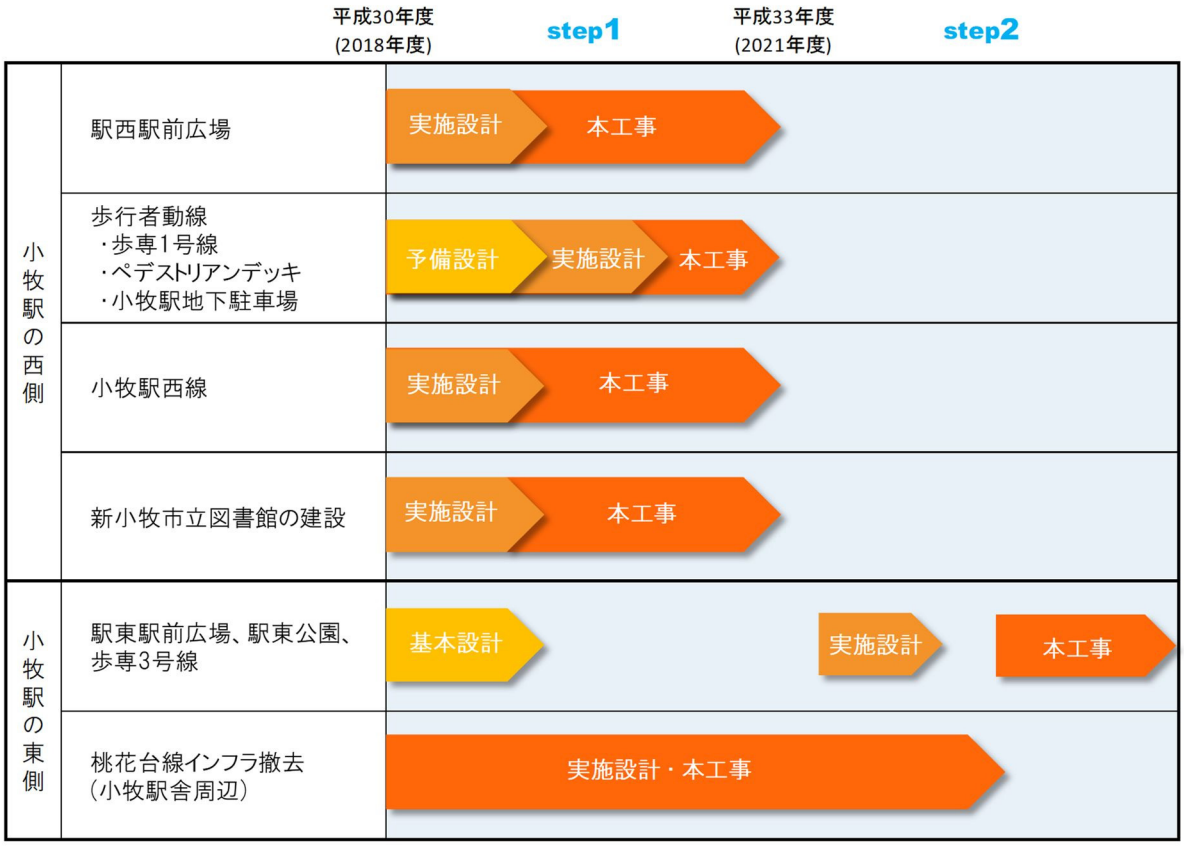
Ⅳ 構想の実現に向けて

（１）小牧駅前広場等の整備スケジュール

小牧駅前広場等の整備は、A街区に建設予定の新小牧市立新図書館の建設工事や愛知県が実施する桃花台線インフラ撤去工事の施工時期などを考慮しながら進めていく必要がある。とりわけ、桃花台線インフラ撤去工事は、事業期間が長期化することが想定される。

そのため、小牧駅前広場等の整備は段階的に行うこととし、駅の西側（駅西駅前広場、小牧駅西線、歩専１号線、ペデストリアンデッキ）を新小牧市立図書館の供用開始までに整備し、駅の東側（駅東駅前広場、駅東公園、歩専３号線、旧桃花台線小牧駅舎跡地）を桃花台線インフラ撤去後に整備することを目標とする。

なお、詳細な整備スケジュールについては、今後、上記工事の施工主体などの関係団体と協議・調整を行いながら組み立てていくこととする。



（２）新小牧市立図書館建設事業との連携

新小牧市立図書館の供用開始までに、駅西駅前広場、小牧駅西線及び歩専１号線などの整備、駅側ペデストリアンデッキの撤去を目標とするため、新小牧市立図書館建設事業と十分な連携を図る。

新小牧市立図書館とラピオ相互の歩行者動線の整備については、ペデストリアンデッキ及び地下通路などの活用について、利便性と経済性を考慮しながら検討を行う。

（３）桃花台線インフラ撤去工事との調整

愛知県が実施する桃花台線インフラ撤去工事については、駅東駅前広場や駅東公園など一定の範囲を施工ヤードとして利用する必要があるため、施工期間や施工方法、仮設バスターミナル等の配置などについて、駅利用者に与える影響が最小限となるように愛知県と調整を図るものとする。

また、桃花台線インフラ撤去工事が完了した後、早期に駅東駅前広場等の整備に着手できるよう、愛知県や交通事業者などの関係団体と調整を図るものとする。

（４）駅前広場等の機能を確保しながら施工する計画について

小牧駅前広場等の整備を段階的に進めるにあたっては、バス・タクシー・一般車の乗降場などの交通結節点機能を維持する必要があり、駅利用者に与える影響が最小限となるように安全性や利便性に十分配慮しながら施工する計画を立案する必要がある。

そのため、施工計画については、交通事業者などの関係団体と協議・調整を行いながら駅利用者の安全性と利便性に配慮しながら立案していくこととし、施工にあたっては、市広報やホームページ、現地に案内看板を設置するなど、地域住民や駅利用者に対する事前周知を徹底するものとする。